

**平成26年度調査結果 及び
平成28年度調査結果 に基づく
江別市民の日常の移動実態に関するとりまとめ**

江別市民の日常の移動実態(H26・H28調査結果より)

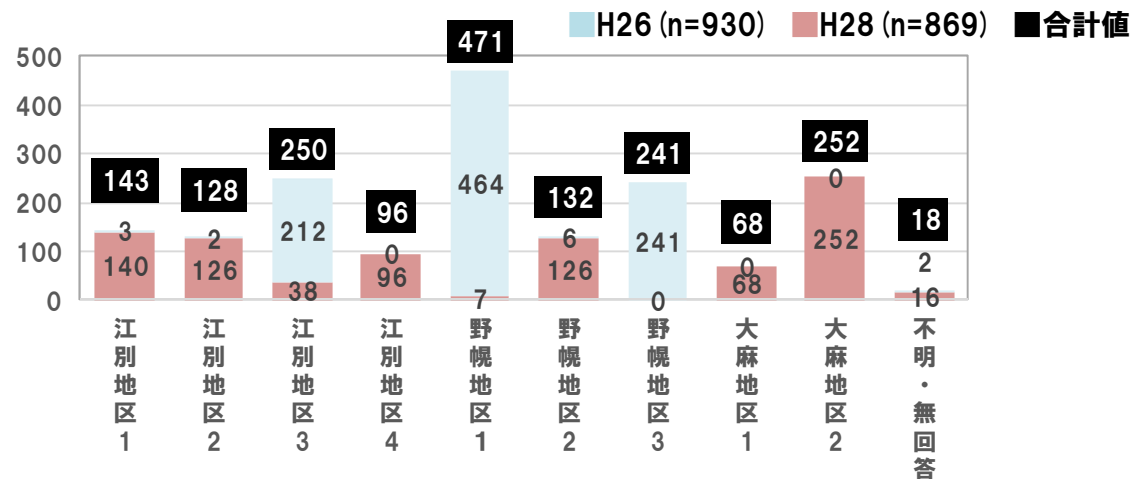
調査概要

回収状況

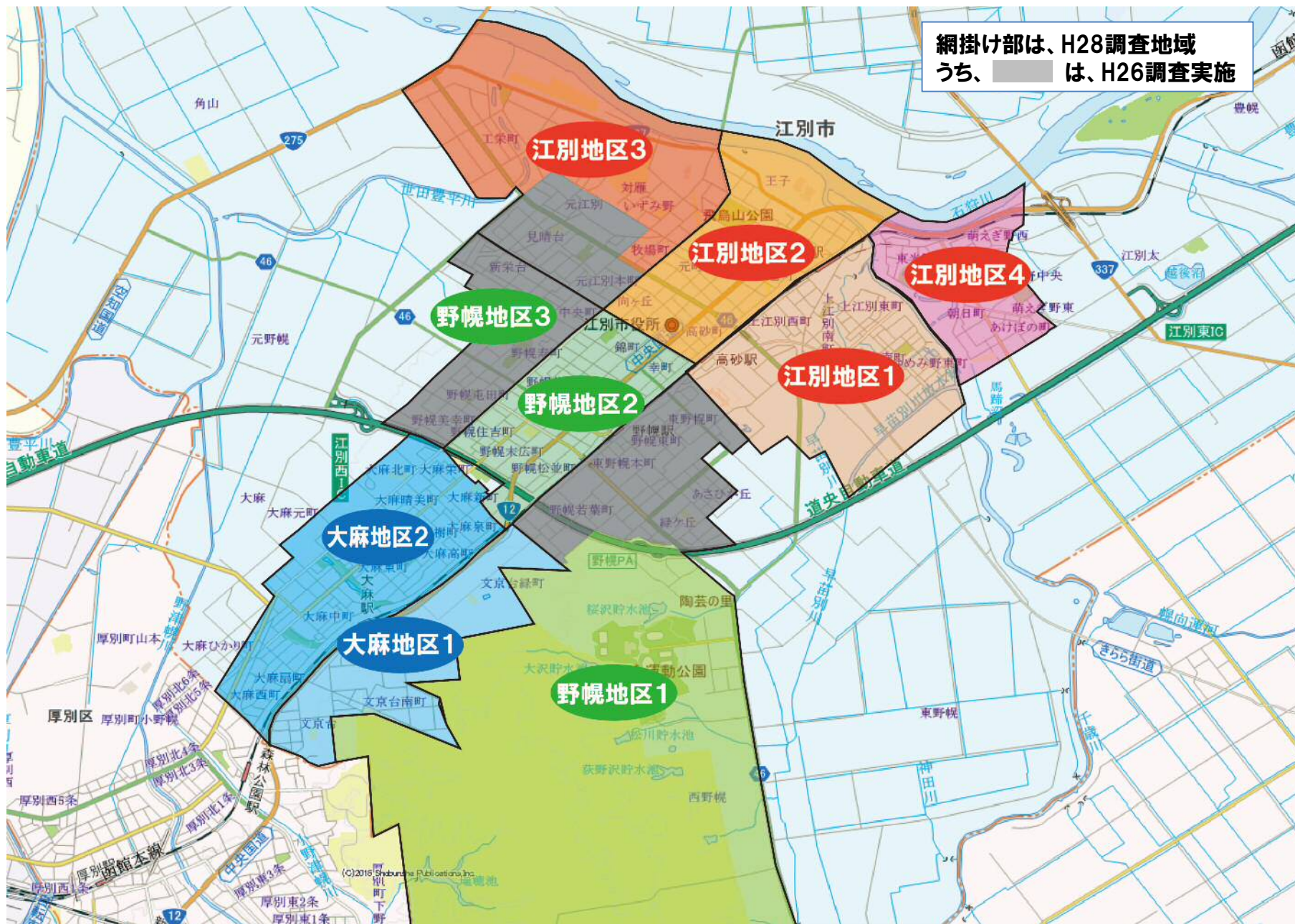
| | H26調査 | H28調査 |
|-------|---------|---------|
| 対象世帯数 | 1,500世帯 | 1,525世帯 |
| 配布数 | 3,000 票 | 2,849 票 |
| 回収数 | 930 票 | 869 票 |
| 世帯回収率 | 35.0 % | 36.9 % |
| 回収率 | 31.0 % | 30.5 % |

回答者の属性

①居住地(地区名)



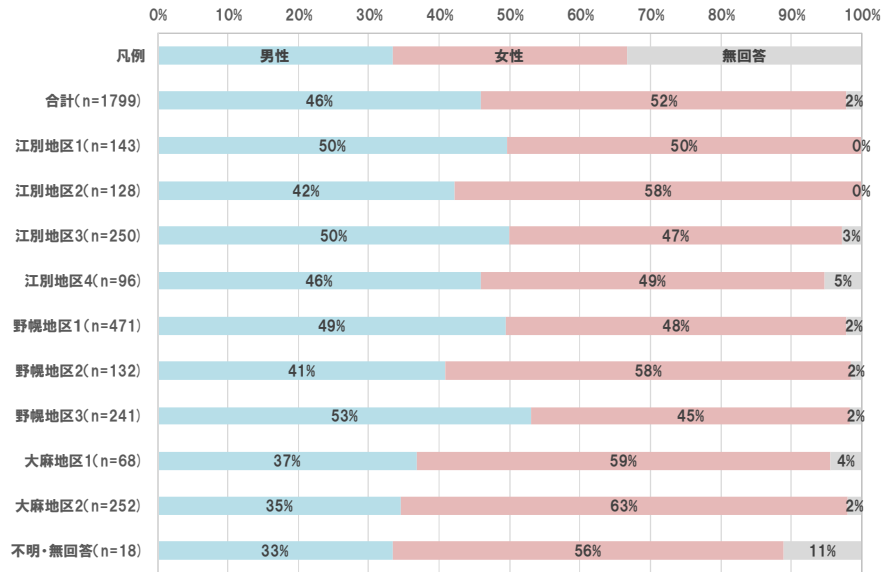
調査対象地域



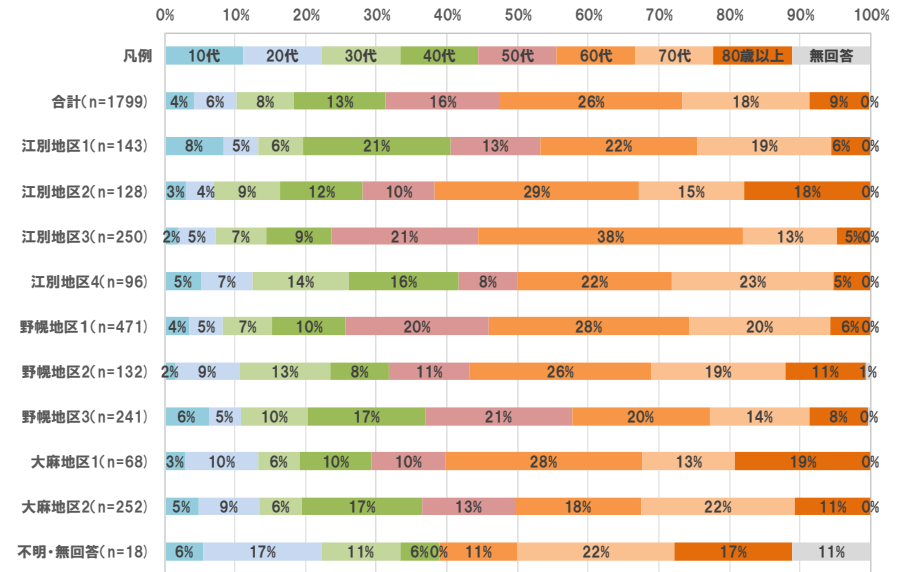
江別市民の日常の移動実態(H26・H28調査結果より)

回答者の属性

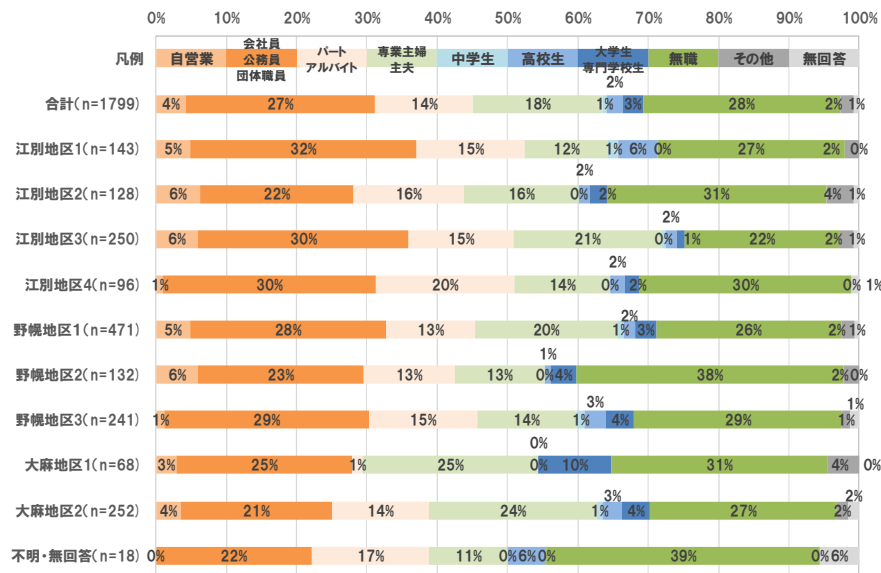
②性別



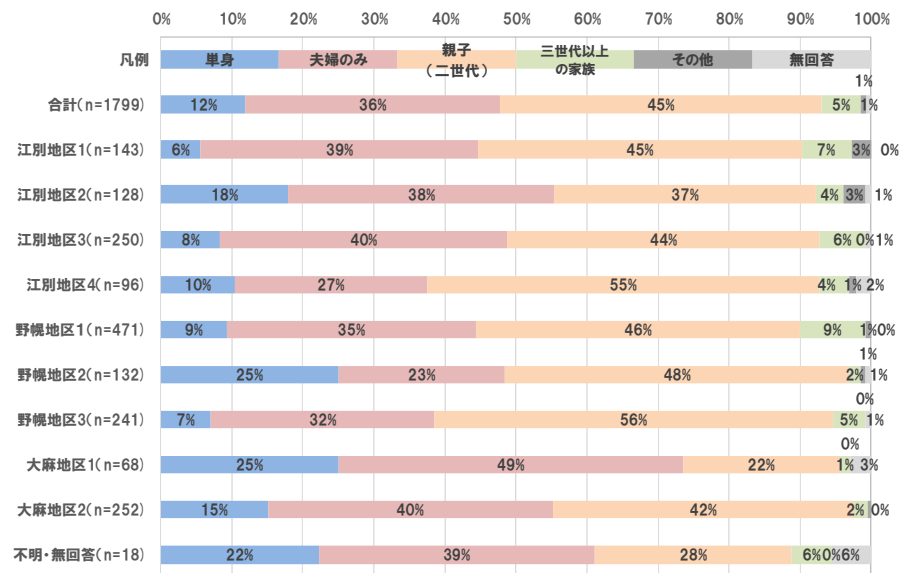
③年齢



④職業・就業の状況



⑤世帯構成



設問1. 回答者の属性

まとめ

- ・回答者の性別は、女性の方が割合が高くなっている。
- ・回答者の年齢層は、概ね60代以上の割合が半数程度となっている。
- ・職業就業の状況は、全体では「会社員・公務員・団体職員」と「無職」の割合がほぼ同程度となっている。
- ・学生の回答は、大麻地区1で10%となっているが、全体では1割未満となっている。
- ・回答者の世帯構成は、全体では「親子(二世帯)」の割合が高くなっている。
- ・大麻地区1では、「夫婦のみ」の割合が約半数の49%となっており、「単身」の割合も2割を超えている。

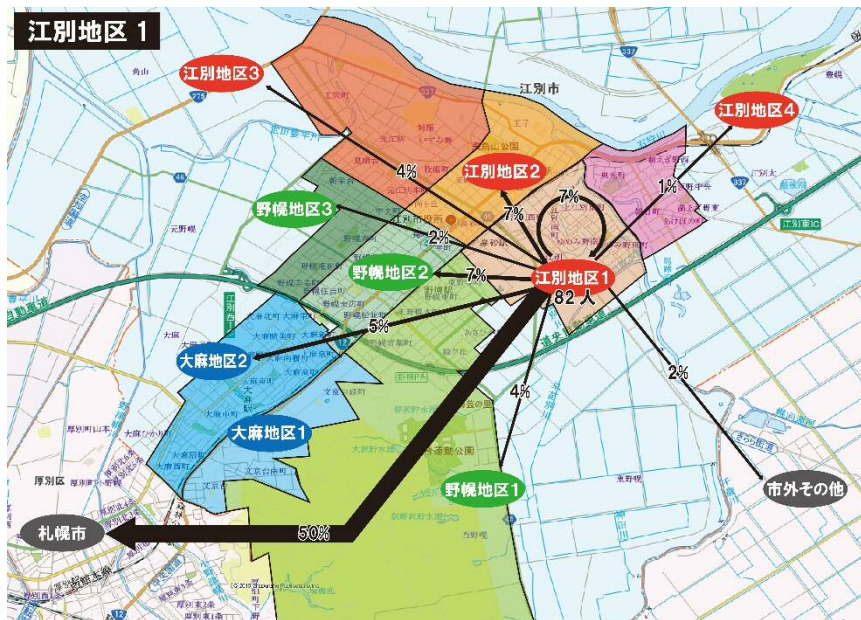
(1)通勤・通学

(1)通勤・通学

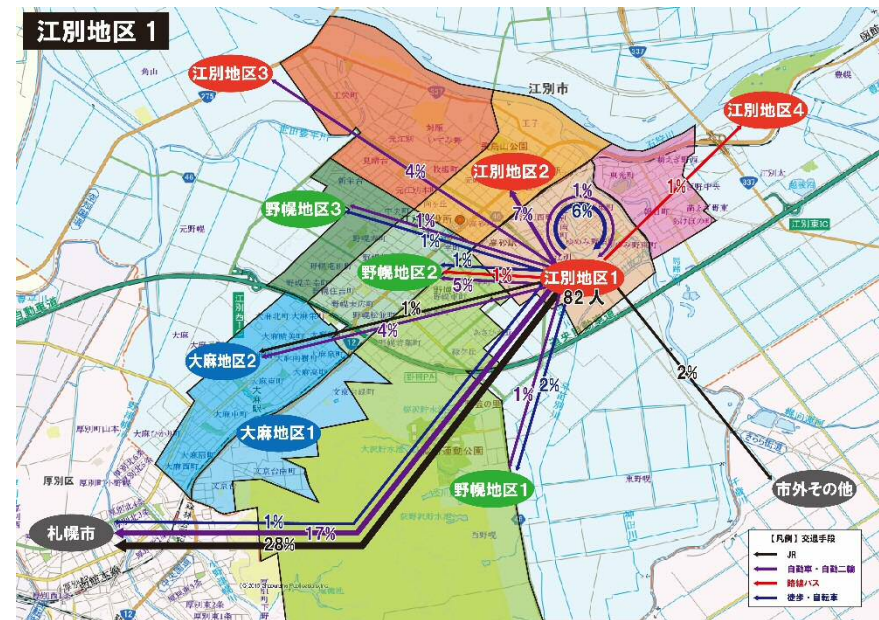
◆地区別通勤・通学OD 江別地区1

- ・江別地区1からの通勤・通学は、50%が札幌市へ向かっており、江別市内は、各地区とも1割未満となっている。
- ・札幌市への通勤・通学における代表交通手段は、鉄道の割合が最も高く全体の28%、次いで自動車・自動二輪が17%となっている。
- ・路線バスの利用は、野幌地区2と江別地区4への利用が見られる。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



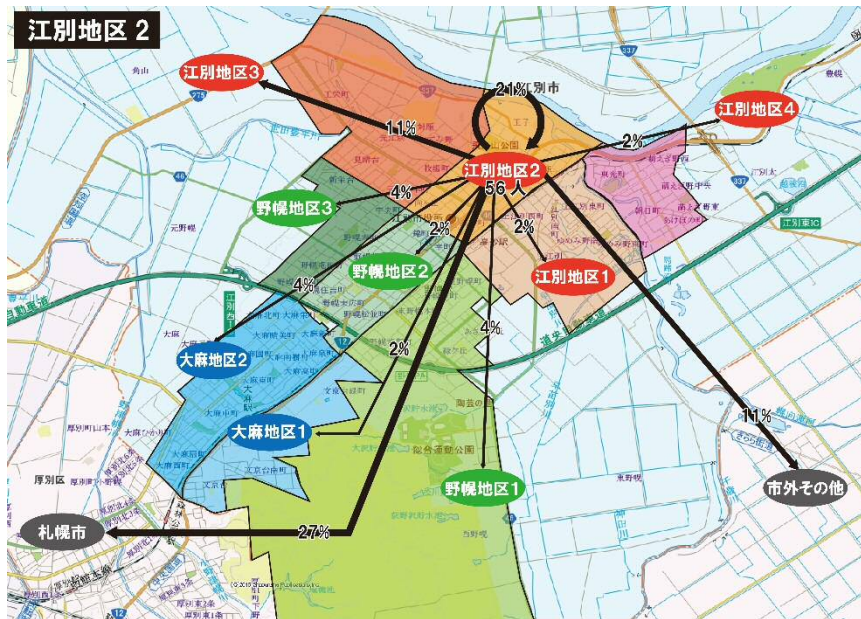
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(1)通勤・通学

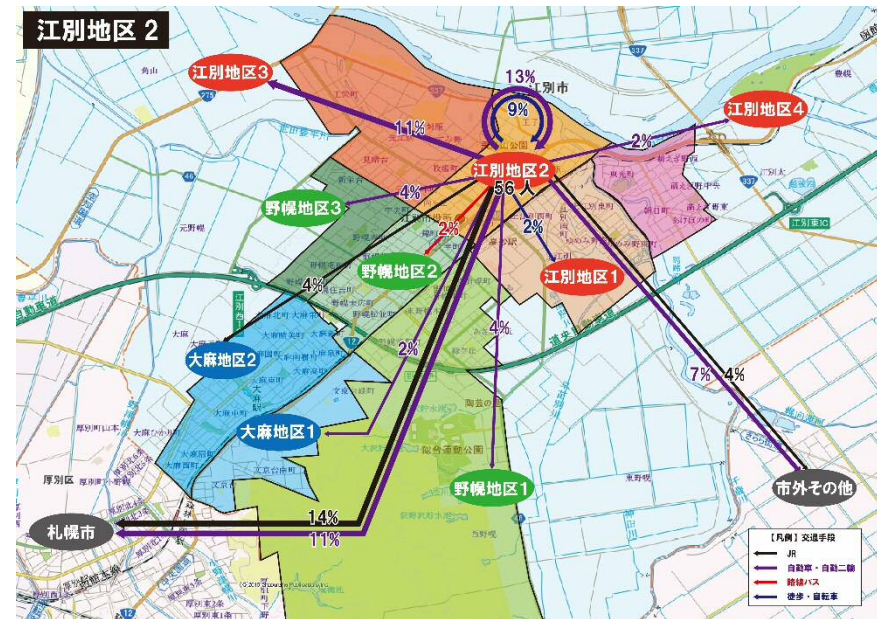
◆地区別通勤・通学OD 江別地区2

- ・江別地区2からの通勤・通学は、27%が札幌市へ向かっており、最多となっている。
- ・江別市内では、同地区内での移動が21%、江別地区3への移動が11%となっており、合計で全体の32%と多く見られる。
- ・札幌市への通勤・通学における代表交通手段は、鉄道の割合が最も高く全体の14%、次いで自動車・自動二輪が11%となっている。
- ・路線バスの利用は、野幌地区2への利用が見られる。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



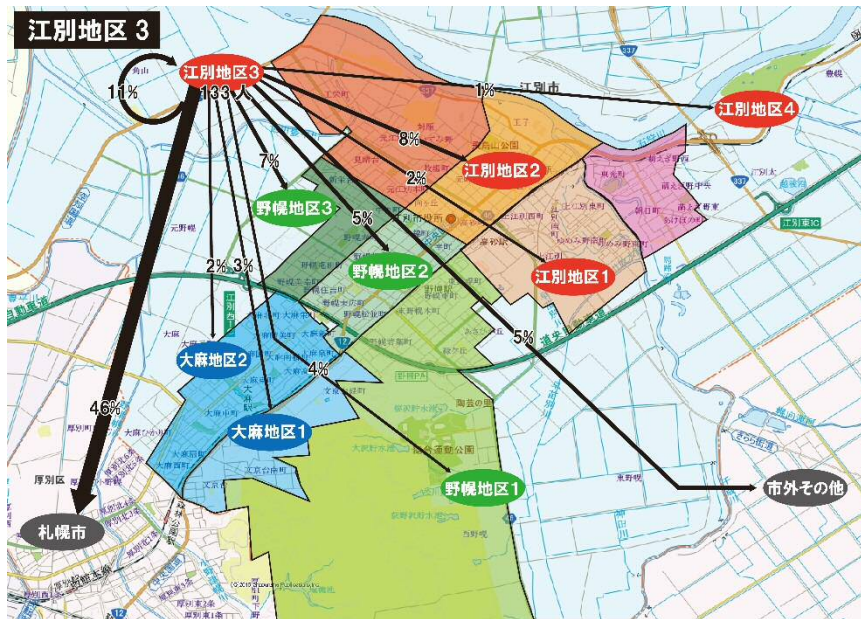
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(1)通勤・通学

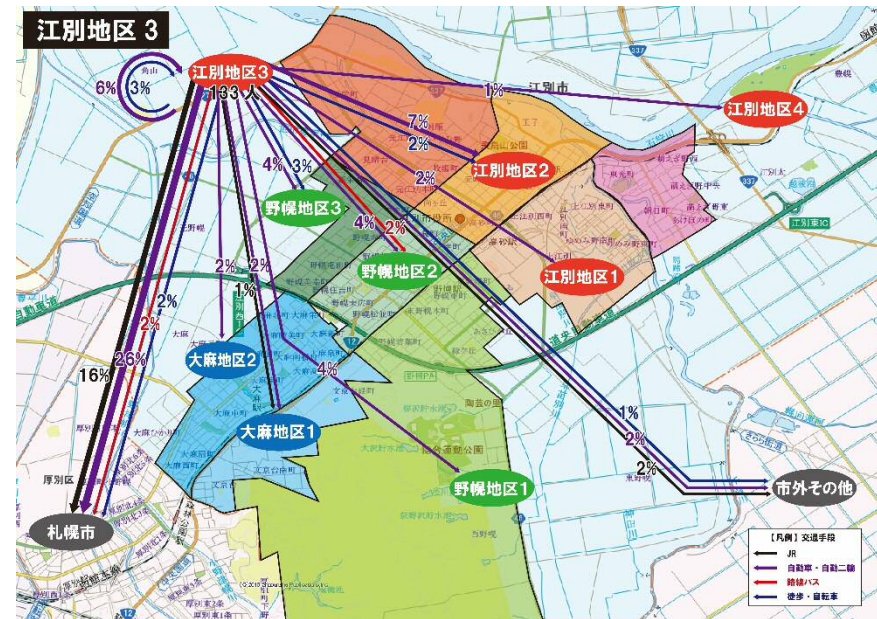
◆地区別通勤・通学OD 江別地区3

- ・江別地区3からの通勤・通学は、約半数の46%が札幌市へ向かっており、最多となっている。
- ・江別市内では、同区内での移動が11%と割合が最も高くなっている。
- ・札幌市への通勤・通学における代表交通手段は、自動車・自動二輪の割合が最も高く全体の26%、次いで鉄道が16%となっている。
- ・路線バスの利用は、野幌地区2と札幌市への利用が見られる

■地区別OD



■代表交通手段別OD



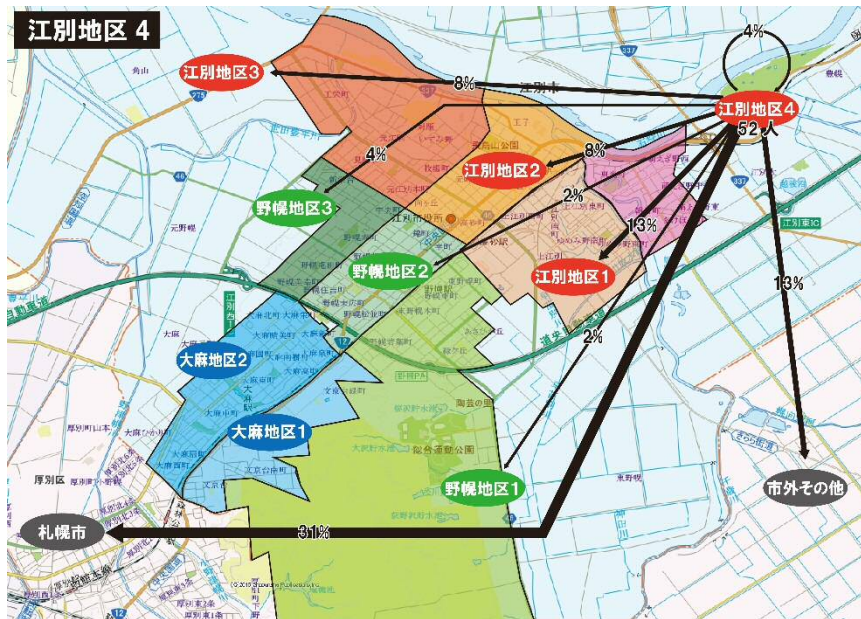
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(1)通勤・通学

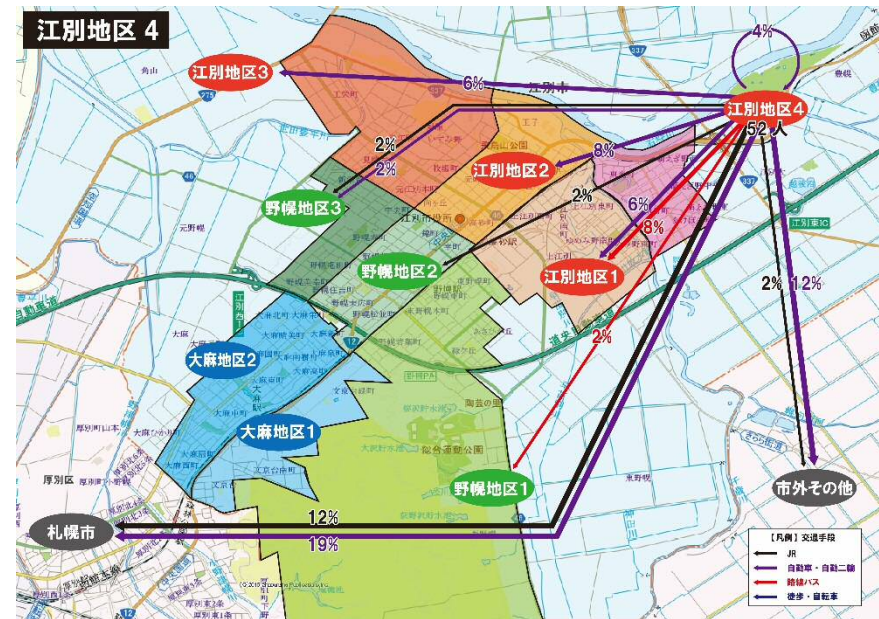
◆地区別通勤・通学OD 江別地区4

- ・江別地区4からの通勤・通学は、31%が札幌市へ向かっており、最多となっている。
- ・江別市内では、江別地区1への移動が全体の13%存在している。
- ・札幌市への通勤・通学における代表交通手段は、自動車・自動二輪の割合が最も高く全体の19%、次いで鉄道が12%となっている。
- ・路線バスの利用は、野幌地区1と江別地区1への利用が見られる。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



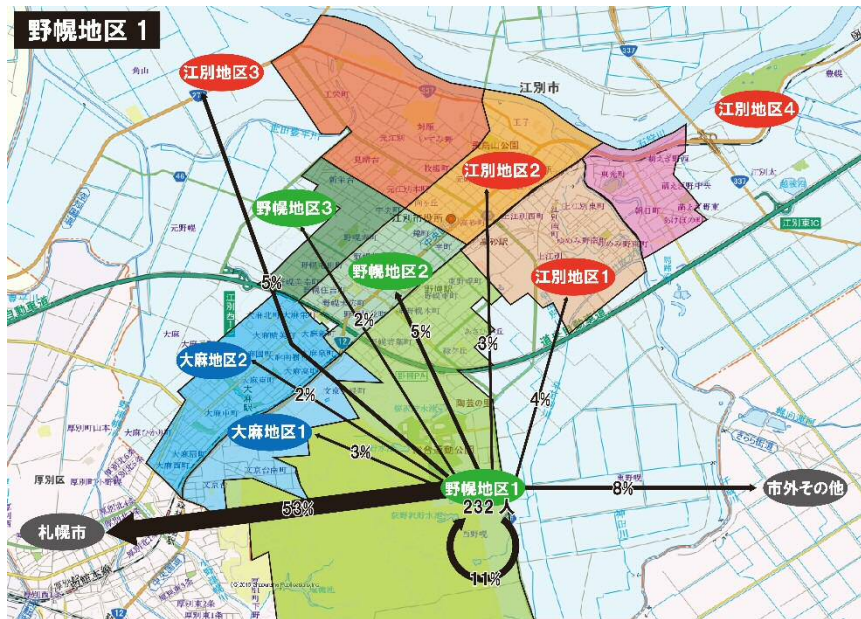
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(1)通勤・通学

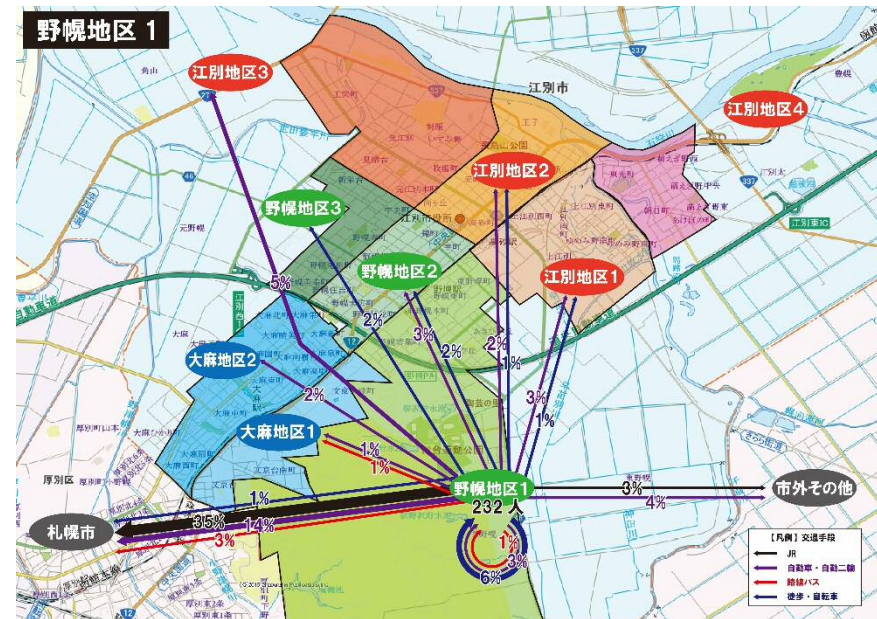
◆地区別通勤・通学OD 野幌地区1

- ・野幌地区1からの通勤・通学は、53%が札幌市へ向かっており、最多となっている。
- ・江別市内では、同地区内での移動が11%になっており、それ以外は1割未満となっている。
- ・札幌市への通勤・通学における代表交通手段は、鉄道の割合が最も高く全体の35%、次いで自動車・自動二輪が14%となっている。
- ・路線バスの利用は、同地区内、大麻地区1及び札幌市への利用が見られる。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



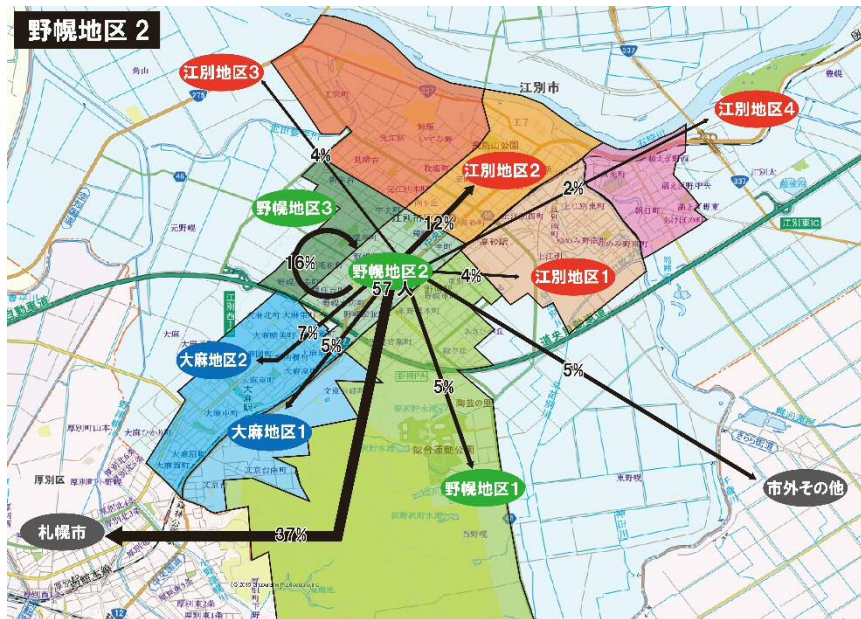
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(1)通勤・通学

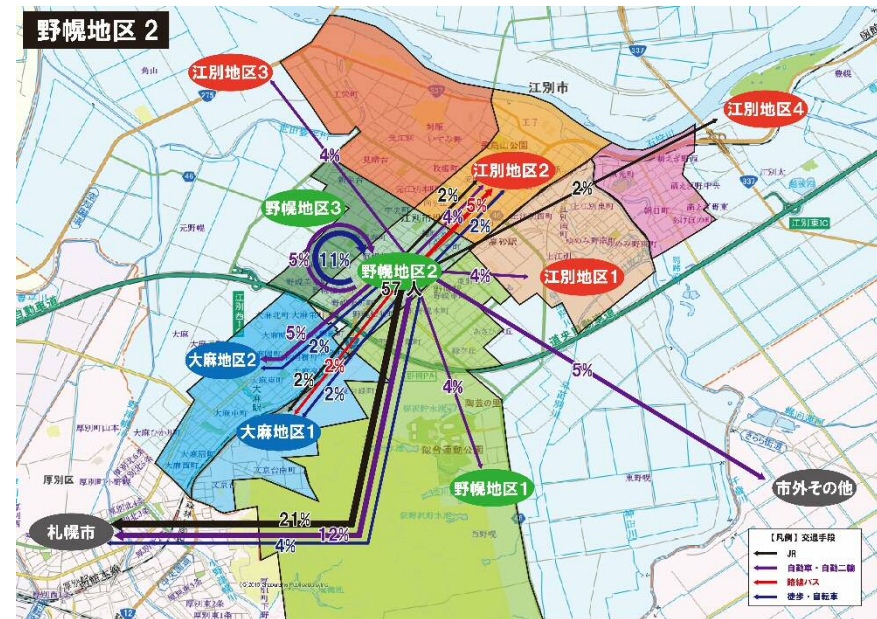
◆地区別通勤・通学OD 野幌地区2

- ・野幌地区2からの通勤・通学は、37%が札幌市へ向かっており、最多となっている。
- ・江別市内では、同地区内での移動が16%、江別地区2への移動が12%となっており、全体の28%と多く見られる。
- ・札幌市への通勤・通学における代表交通手段は、鉄道の割合が最も高く全体の21%、次いで自動車・自動二輪が12%となっている。
- ・路線バスの利用は、大麻地区1と江別地区2への利用が見られる。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



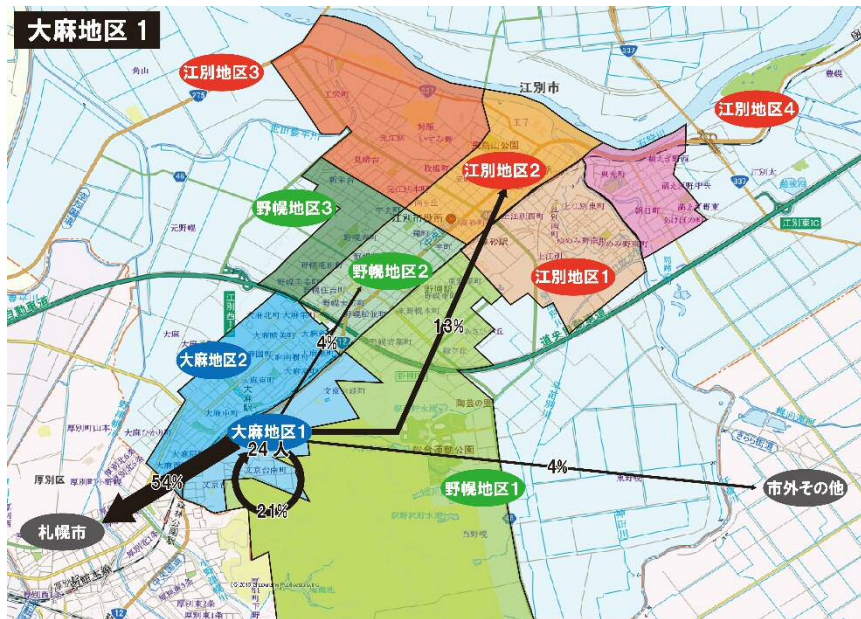
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(1)通勤・通学

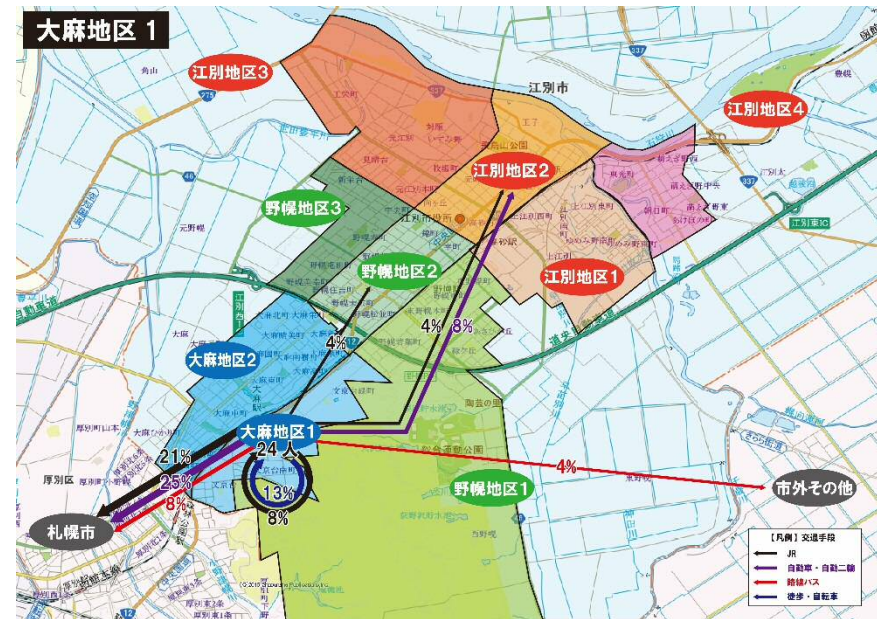
◆地区別通勤・通学OD 大麻地区1

- ・大麻地区1からの通勤・通学は、54%が札幌市へ向かっており、最多となっている。
- ・江別市内では、同地区内が21%、江別地区2への移動が13%存在している。
- ・札幌市への通勤・通学における代表交通手段は、自動車・自動二輪の割合が最も高く全体の25%、次いでが鉄道が21%、路線バスが8%となっている。
- ・路線バスの利用は、札幌市だけでなく、その他の市町村への利用も見られる。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



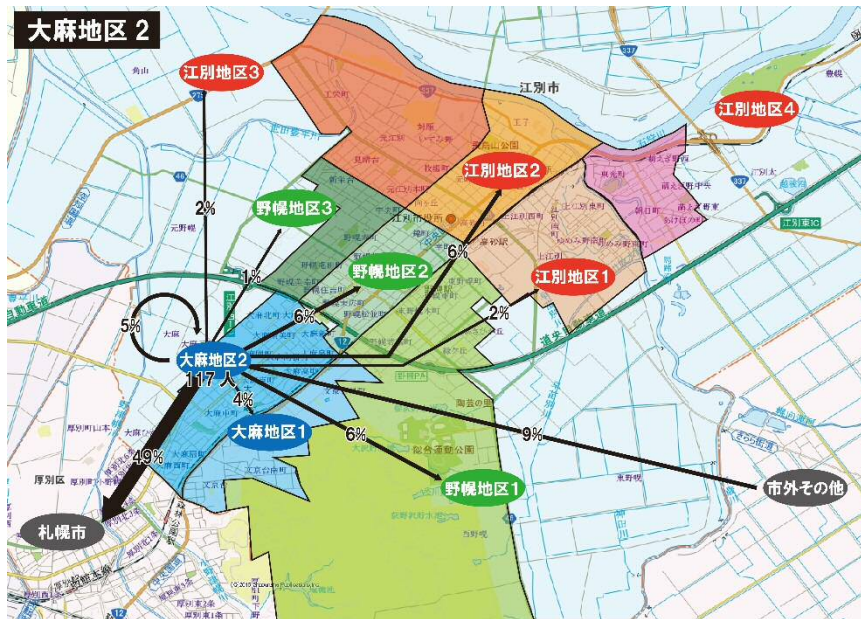
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(1)通勤・通学

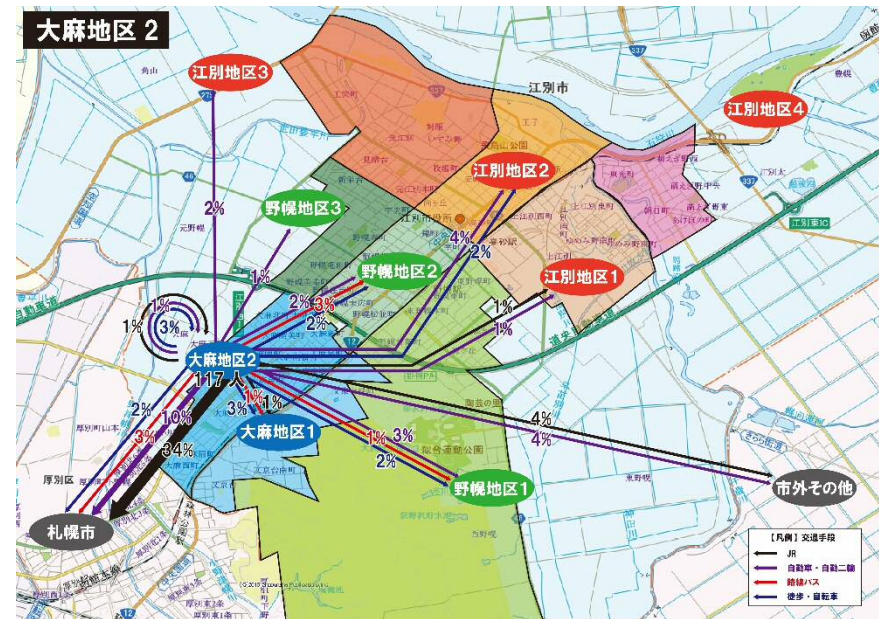
◆地区別通勤・通学OD 大麻地区2

- ・大麻地区2からの通勤・通学は、約半数の49%が札幌市へ向かっており、江別市内は、各地区とも1割未満となっている。
- ・札幌市への通勤・通学における代表交通手段は、鉄道の割合が最も高く全体の34%、次いで自動車・自動二輪が10%となっている。
- ・路線バスの利用は、札幌市、野幌地区1・2及び大麻地区1への利用が見られる。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

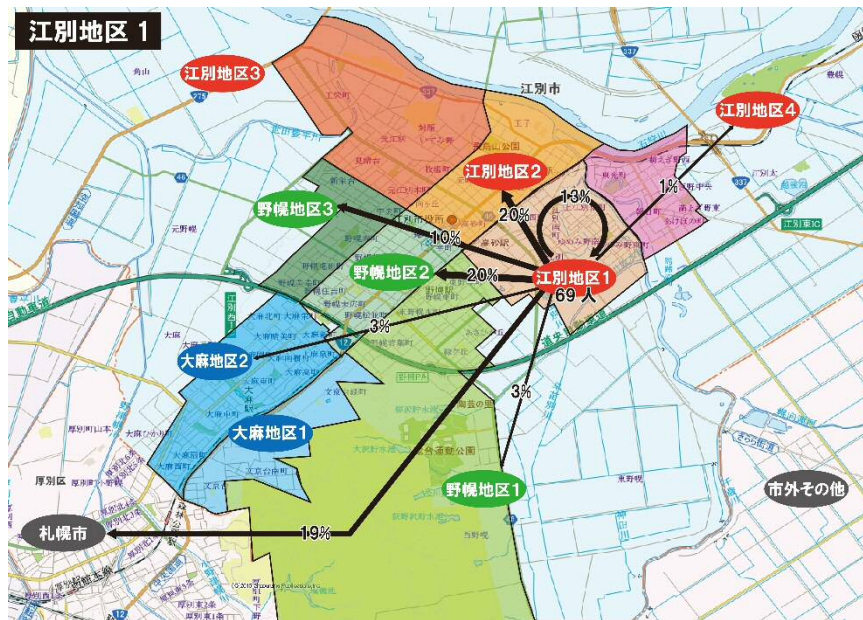
(2)通院

(2)通院

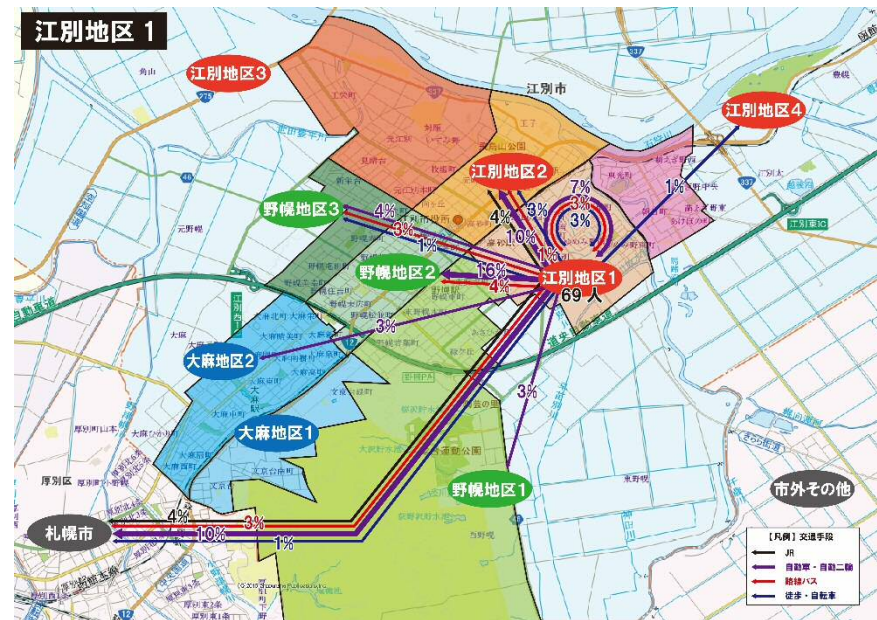
◆地区別通院OD 江別地区1

- ・江別地区1からの通院は、江別地区2及び野幌地区2への移動が共に20%、札幌市への移動が19%と高くなっている。
- ・代表交通手段は、野幌地区2へ16%など、自動車・自動二輪の割合が高くなっている。
- ・路線バスの利用は、合計すると14%となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



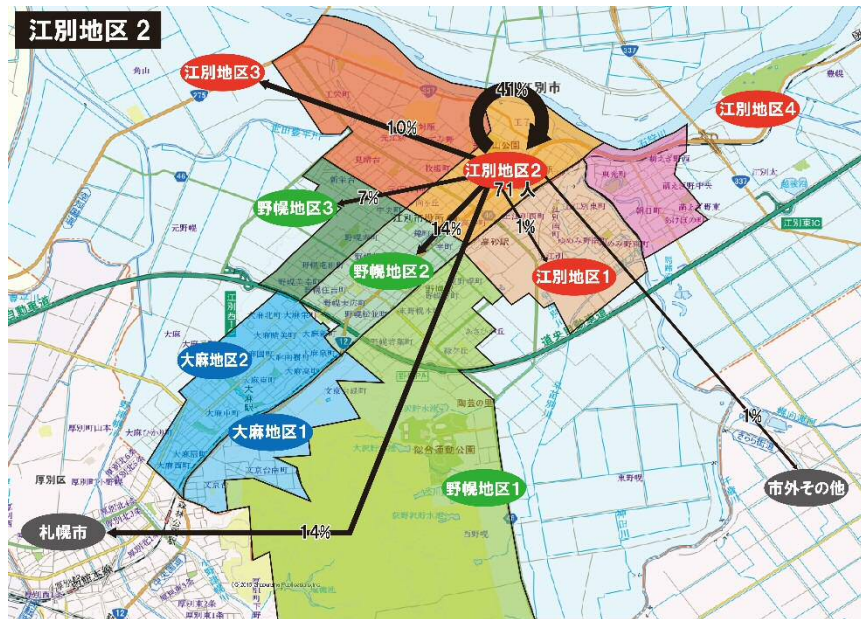
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(2)通院

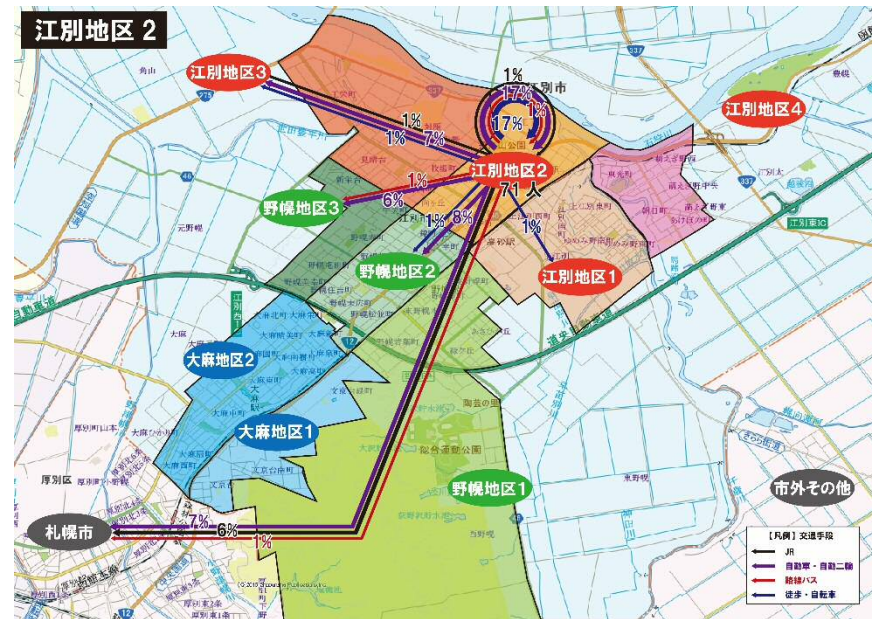
◆地区別通院OD 江別地区2

- ・江別地区2からの通院は、同地区内が41%で最多となっている。
- ・代表交通手段は、同地区内で17%など、自動車・自動二輪の割合が高くなっている。
- ・同地区内での代表交通手段は、自動車・自動二輪と徒歩・自転車の割合が共に17%と高くなっており、路線バスの利用は、わずかとなっている。
- ・路線バスの利用は、合計しても1割未満となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



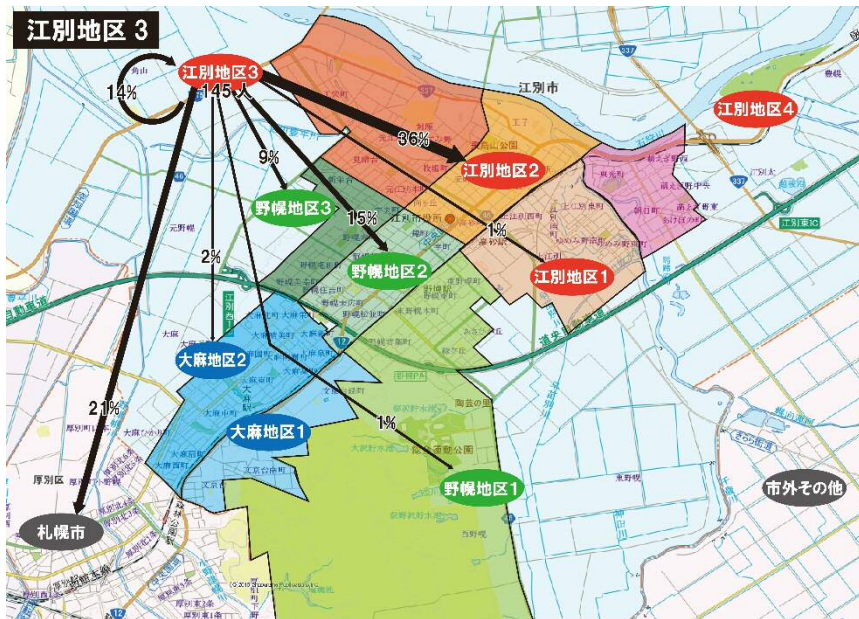
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(2)通院

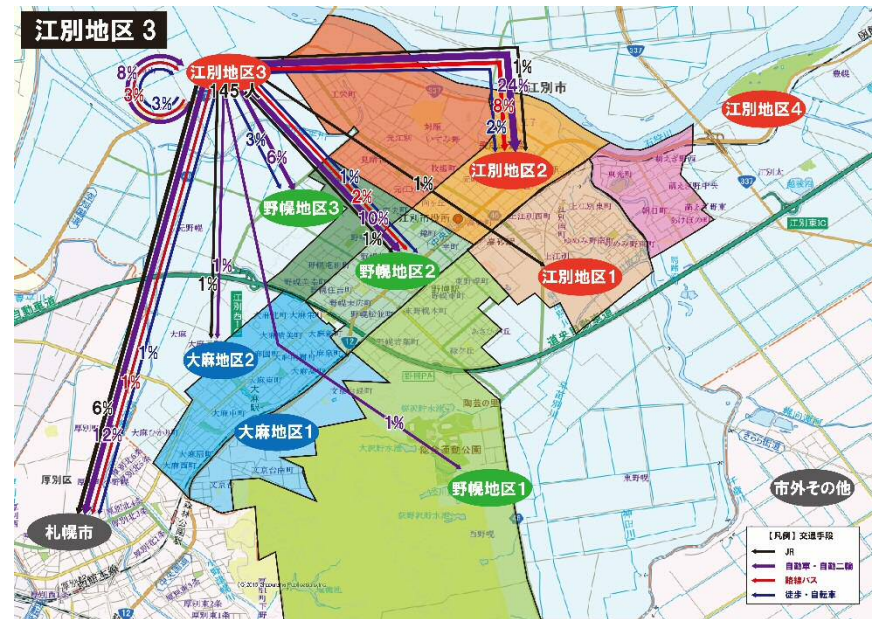
◆地区別通院OD 江別地区3

- ・江別地区3からの通院は、江別地区2が36%で最も割合が高くなっており、次いで札幌市が21%、野幌地区2が15%となっている。
- ・代表交通手段は、概ね自動車・自動二輪の割合が高くなっており、特に江別地区2については、24%と高くなっている。
- ・路線バスの利用は、合計すると14%となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



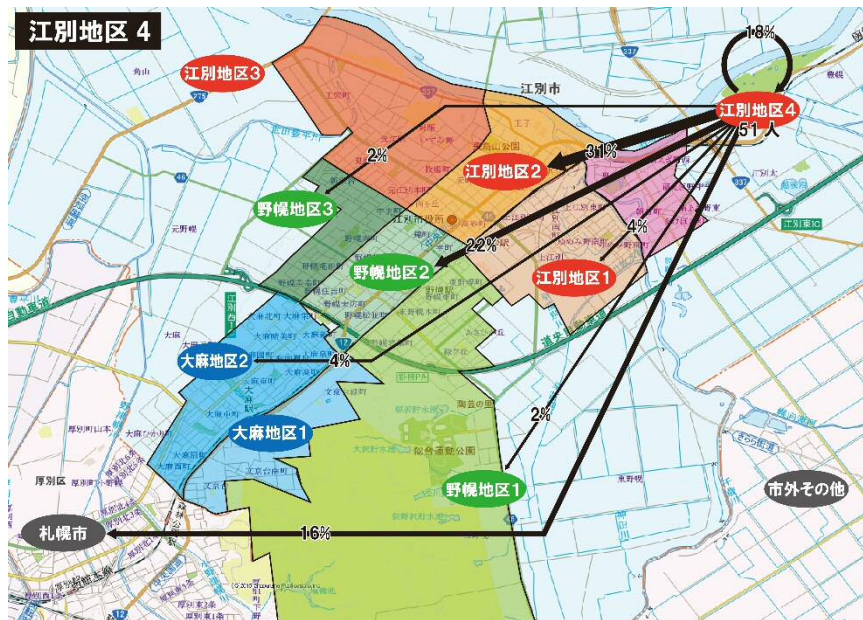
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(2)通院

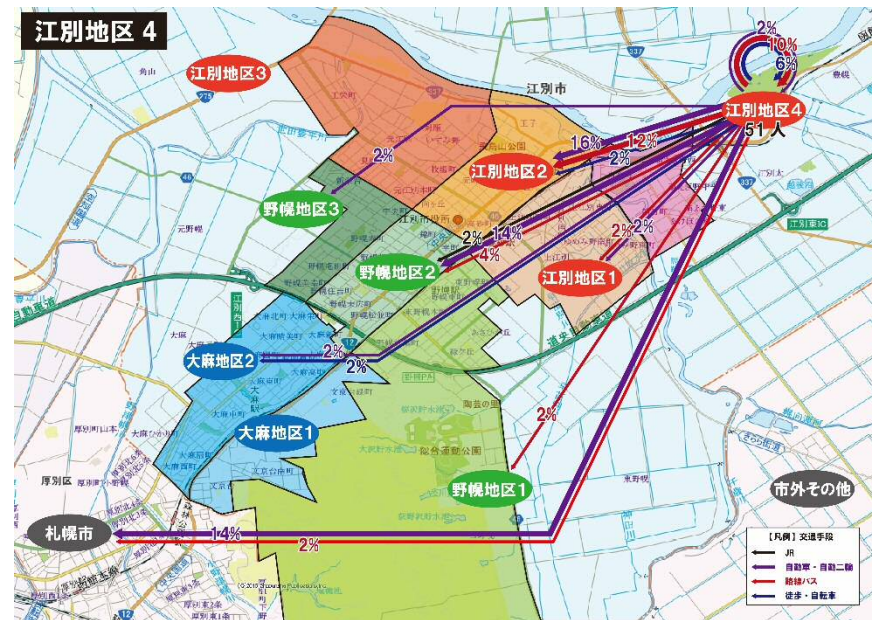
◆地区別通院OD 江別地区4

- ・江別地区4からの通院は、江別地区2が31%で最も割合が高くなっており、次いで、野幌地区2が22%、同地区内が18%、札幌市が16%となっている。
- ・代表交通手段は、全体では自動車・自動二輪の割合が半数を超えるが、同地区内では路線バスの割合が最も高くなっている。
- ・路線バスの利用は、合計すると32%となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



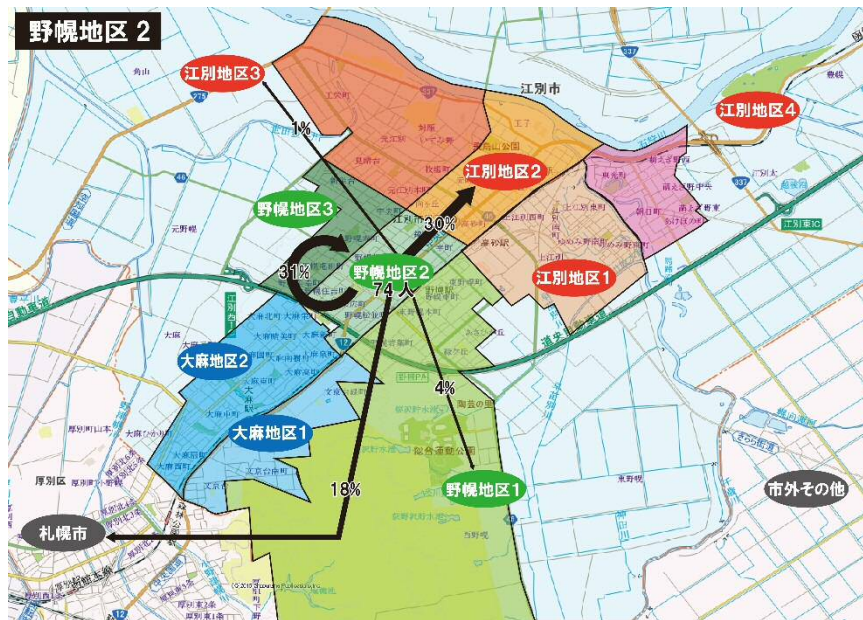
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(2)通院

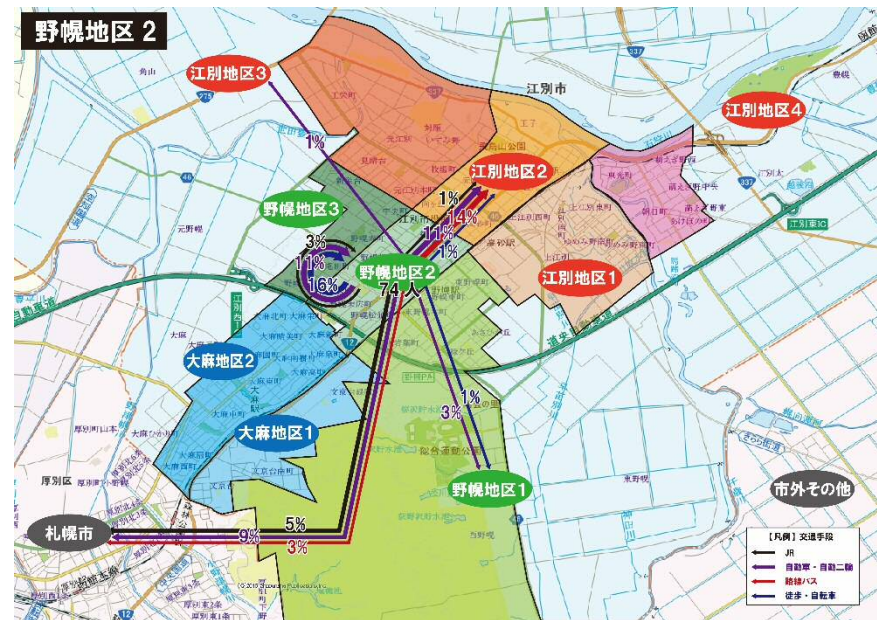
◆地区別通院OD 野幌地区2

- ・野幌地区2からの通院は、同地区内が31%で最も割合が高くなっており、次いで、江別地区2が30%、札幌市が18%となっている。
- ・代表交通手段は、全体では自動車・自動二輪の割合が最も高いが、同地区内では徒歩・自転車の割合が16%と高く、また、江別地区2については、路線バスの割合が14%と高くなっている。
- ・路線バスの利用は、合計すると17%となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



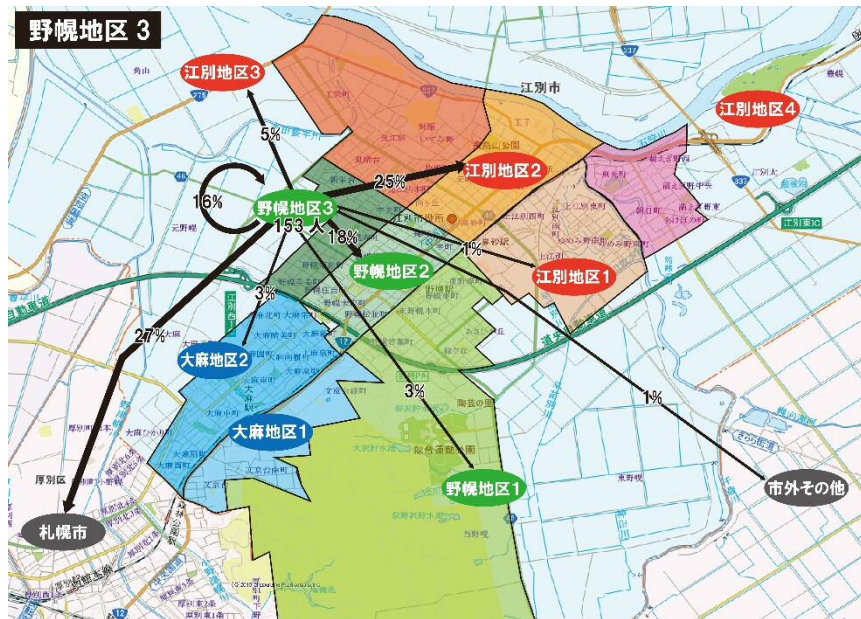
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(2)通院

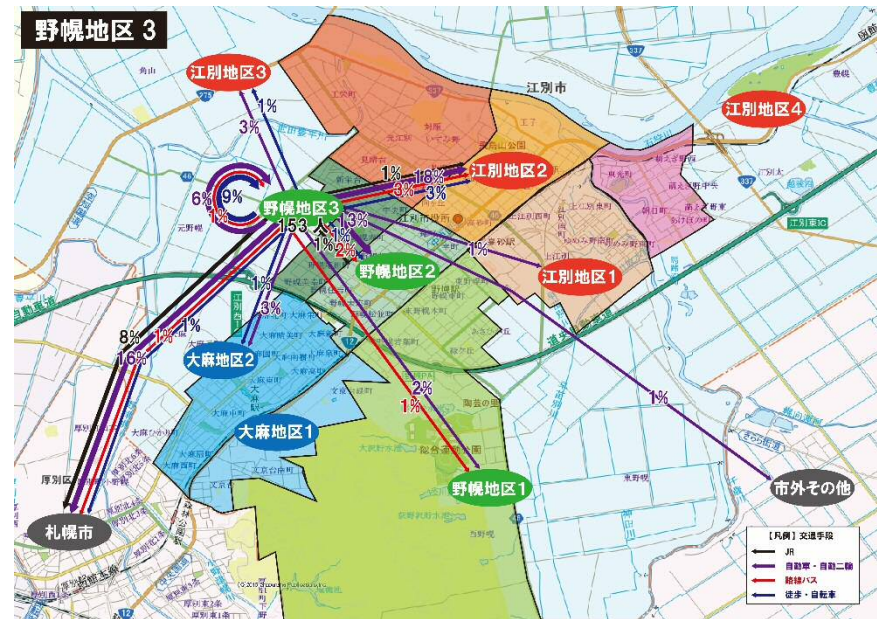
◆地区別通院OD 野幌地区3

- ・野幌地区3からの通院は、札幌市が27%で最も割合が高くなっており、次いで、江別地区2が25%、野幌地区2が18%となっている。
- ・代表交通手段は、徒歩・自転車の割合が高い同地区内を除き、自動車・自動二輪の割合が高くなっている。
- ・路線バスの利用は、合計すると8%となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



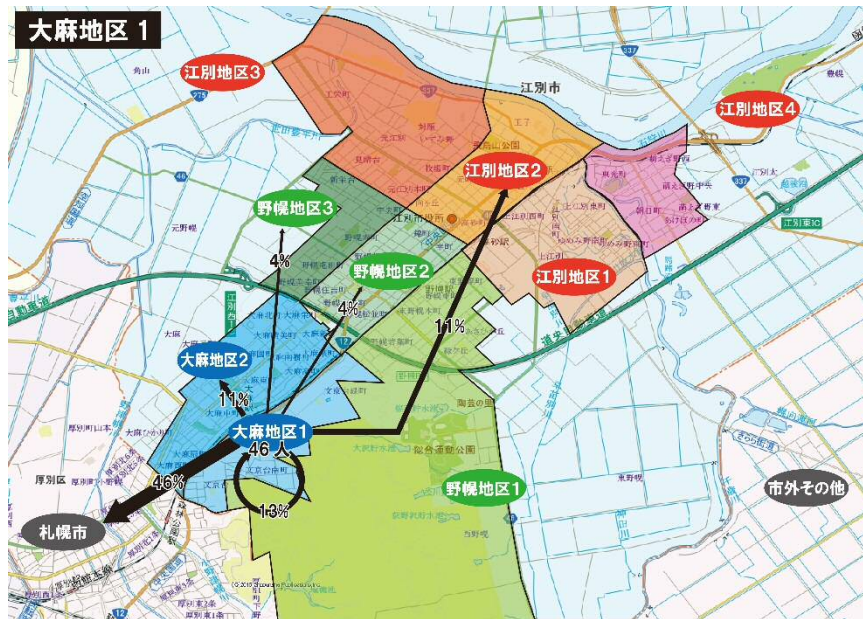
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(2)通院

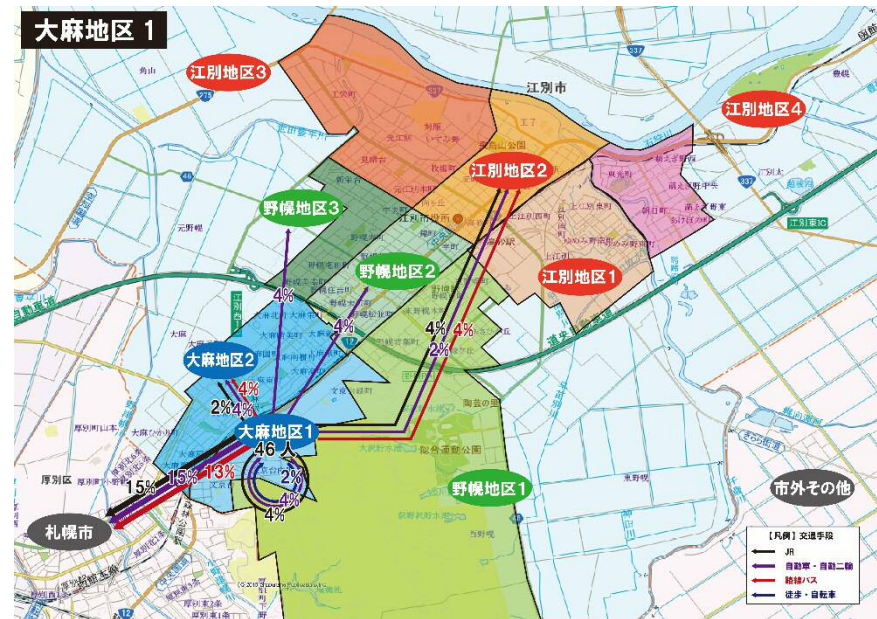
◆地区別通院OD 大麻地区1

- ・大麻地区1からの通院は、札幌市が46%で最も割合が高くなっており、次いで、同地区内が13%、江別地区2と大麻地区2がそれぞれ11%となっている。
- ・半数を占める札幌市への代表交通手段は、鉄道、自動車・自動二輪、路線バスの割合がそれぞれ同程度となっている。
- ・路線バスの利用は、合計すると21%となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



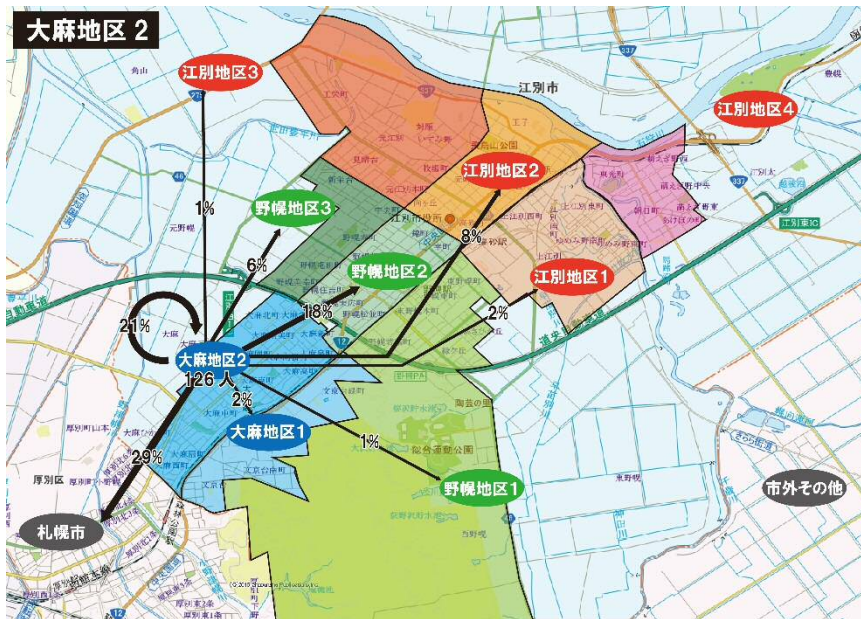
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(2)通院

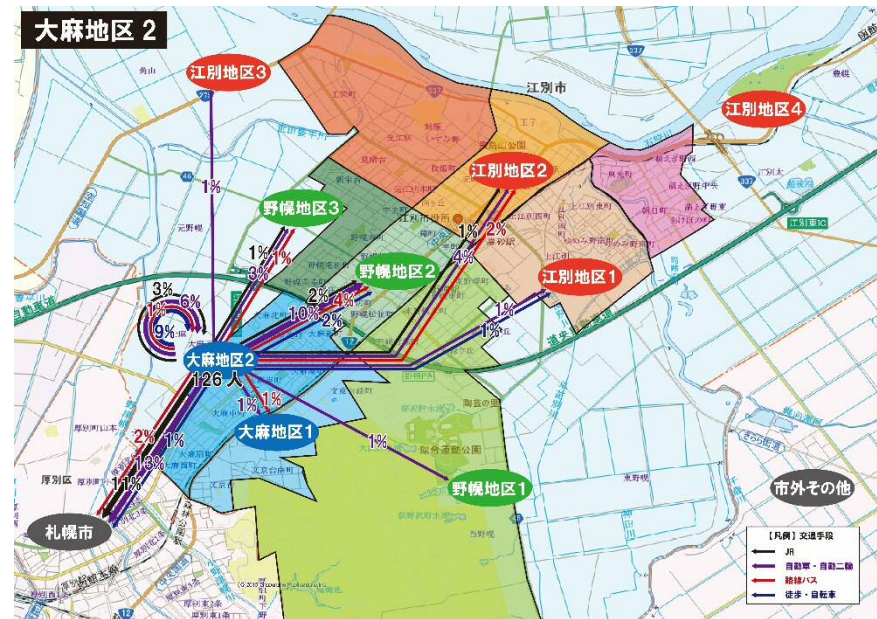
◆地区別通院OD 大麻地区2

- ・大麻地区2からの通院は、札幌市が29%で最も高くなっており、次いで、同地区内が21%、野幌地区2が18%となっている。
- ・代表交通手段は、全体では自動車・自動二輪の割合が最も高くなっているが、同地区内では徒歩・自転車の割合が最も高くなっている。
- ・路線バスの利用は、合計すると11%となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

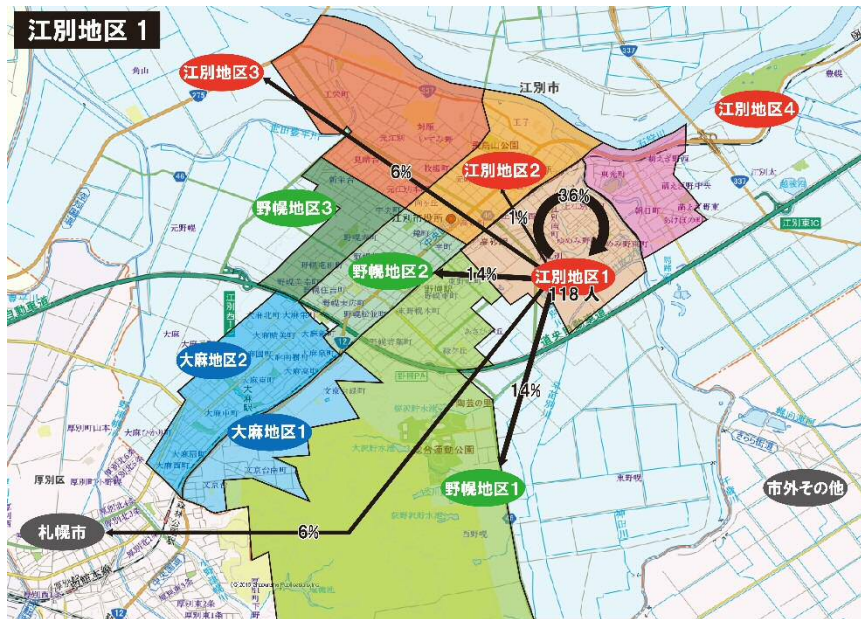
(3)買物

(3) 買物

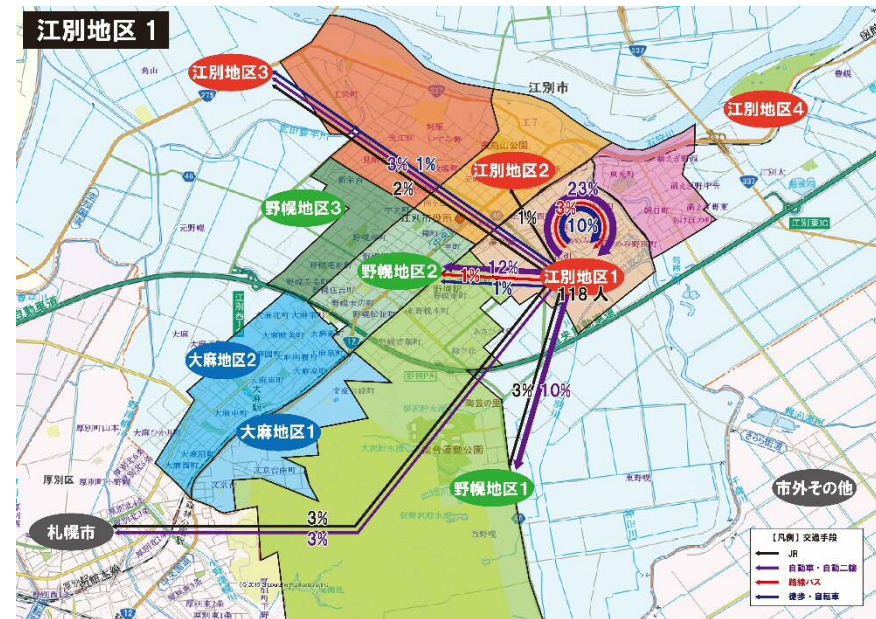
◆地区別買物OD 江別地区1

- ・江別地区1からの買い物は、同地区内が36%で最も割合が高くなっており、次いで、野幌地区1及び野幌地区2がそれぞれ14%となっている。
- ・同地区内における代表交通手段は、自動車・自動二輪が23%で最も割合が高く、次いで徒歩・自転車が10%となっている。
- ・路線バスの利用は、合計しても1割未満となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



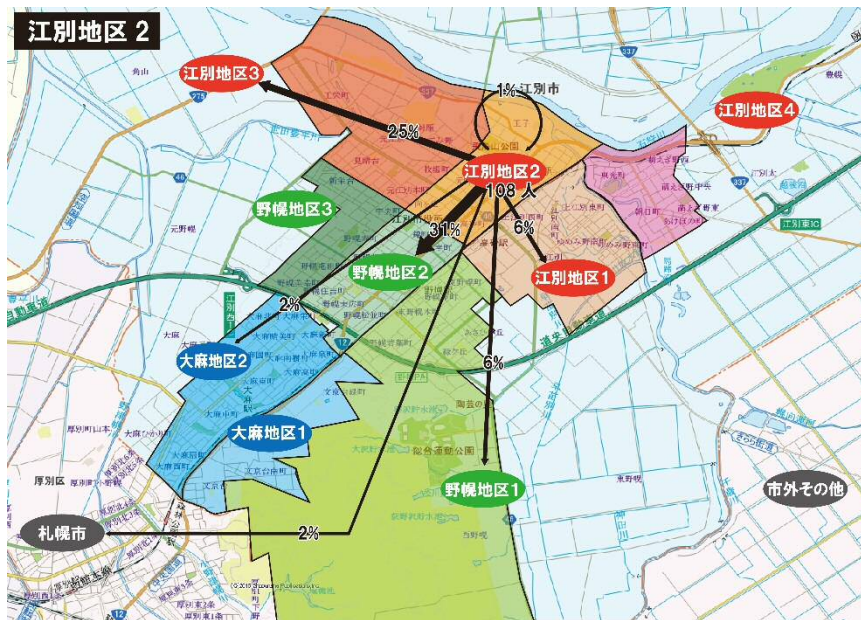
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(3)買物

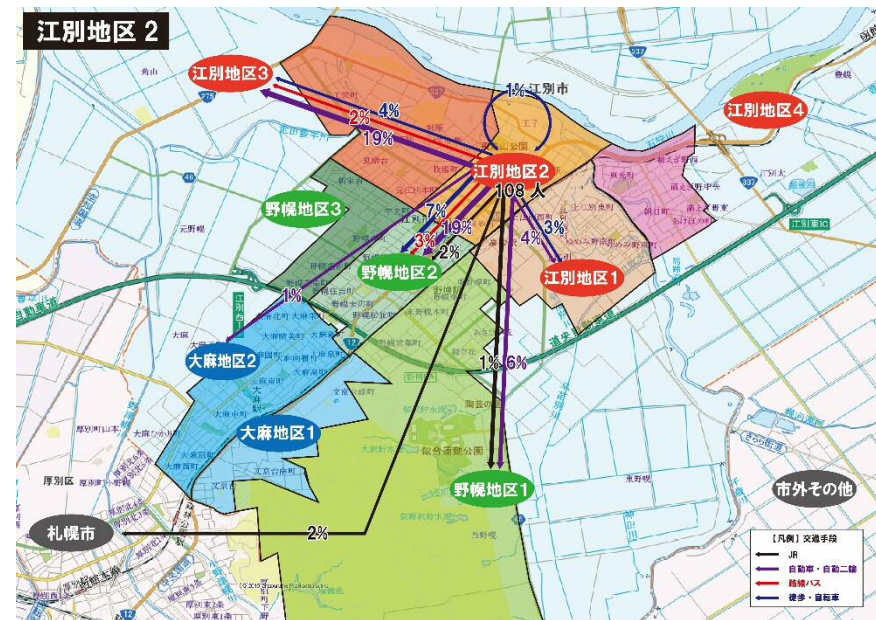
◆地区別買物OD 江別地区2

- ・江別地区2からの買い物は、野幌地区2が31%で最も割合が高くなっており、次いで、江別地区3が25%となっている。
- ・野幌地区2及び江別地区3への代表交通手段は、共に自動車・自動二輪の割合が高くなっている。
- ・路線バスの利用は、合計しても1割未満となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



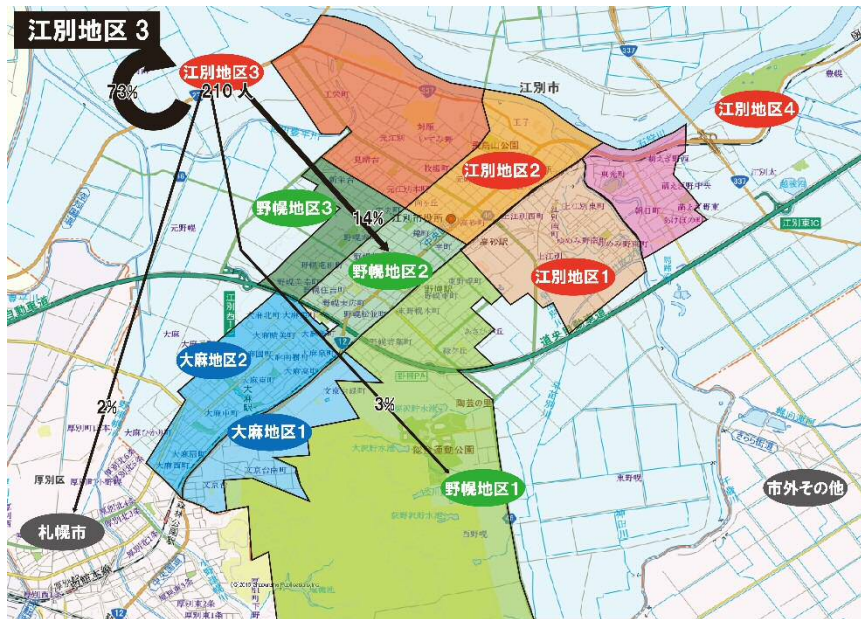
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(3) 買物

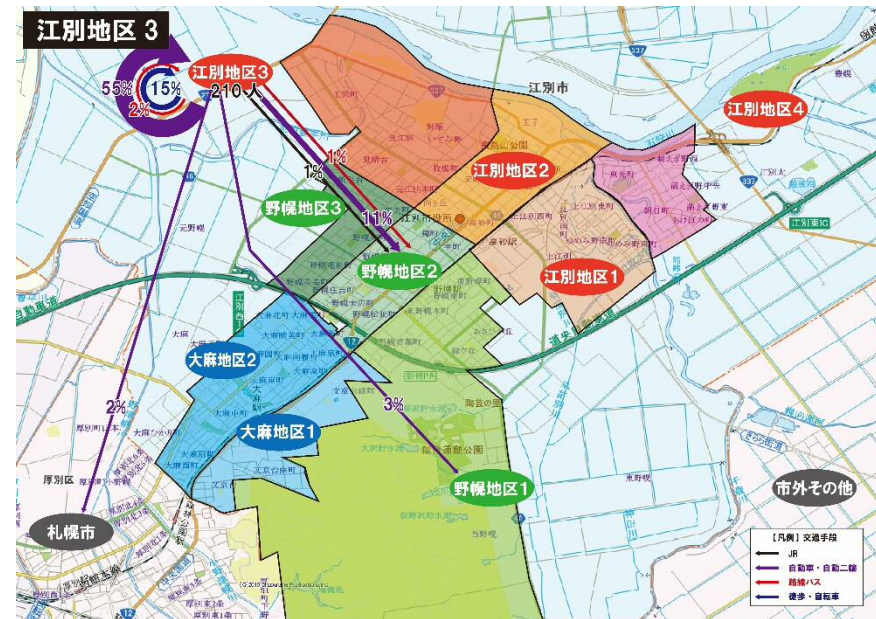
◆地区別買物OD 江別地区3

- ・江別地区3からの買い物は、同地区内が73%と高い割合となっている。
- ・代表交通手段は、各地区とも自動車・自動二輪の割合が高くなっている。
- ・路線バスの利用は、同地区内及び野幌地区2において見られるものの、合計しても1割未満となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



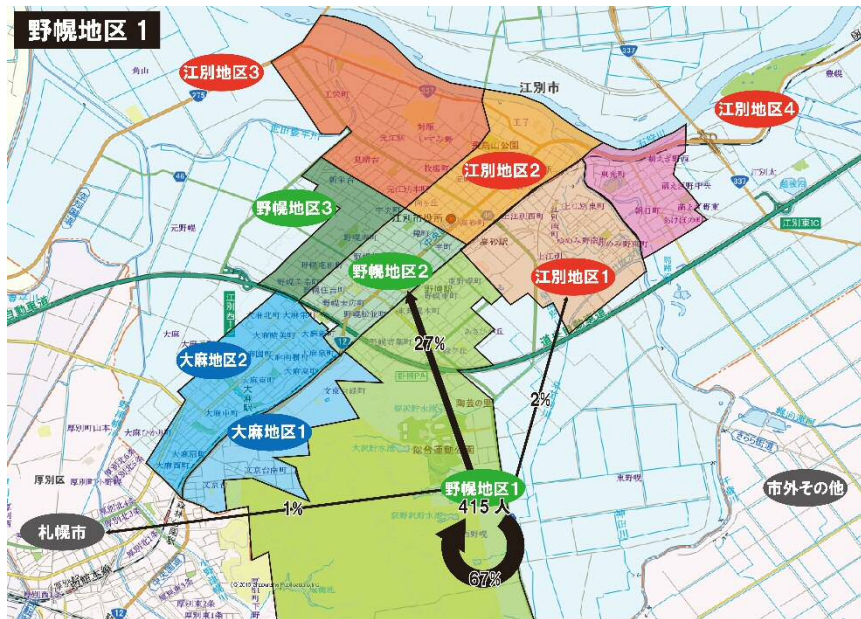
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(3)買物

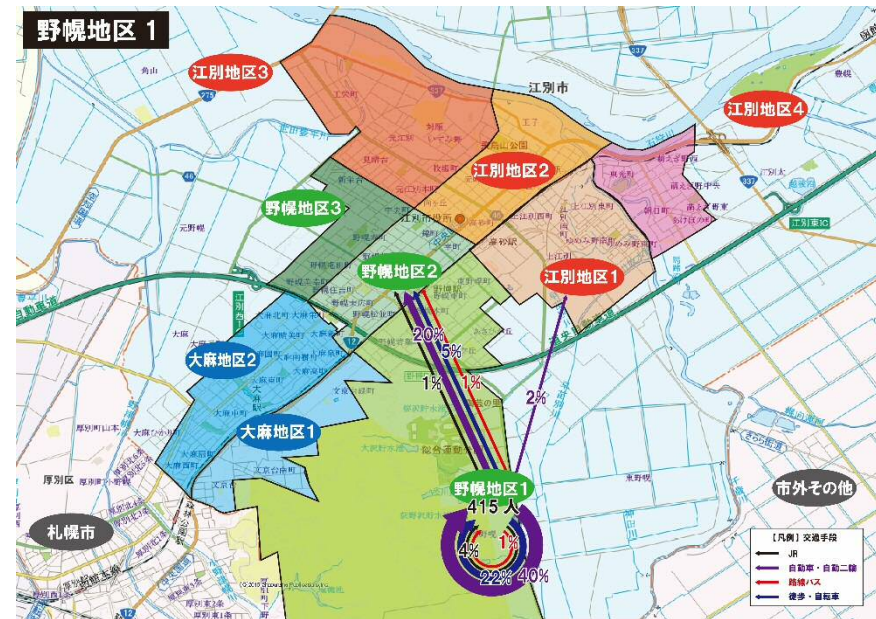
◆地区別買物OD 野幌地区1

- ・野幌地区1からの買い物は、同地区内が67%と高くなっている。
- ・代表交通手段は、各地区とも自動車・自動二輪の割合が高くなっている。
- ・同地区内においては、自動車・自動二輪の割合が40%と高くなっており、次いで徒歩・自転車の割合が22%となっている。
- ・路線バスの利用は、合計しても1割未満となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



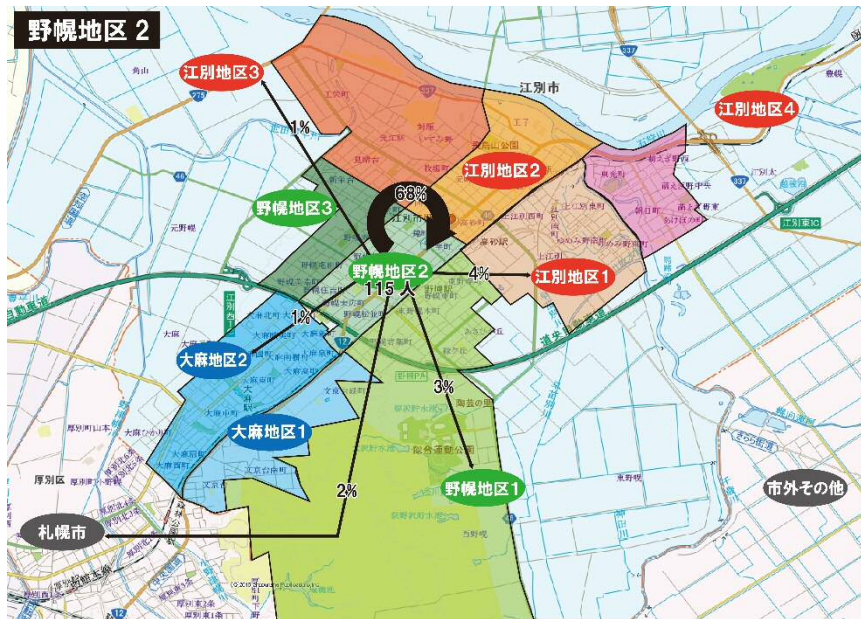
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(3) 買物

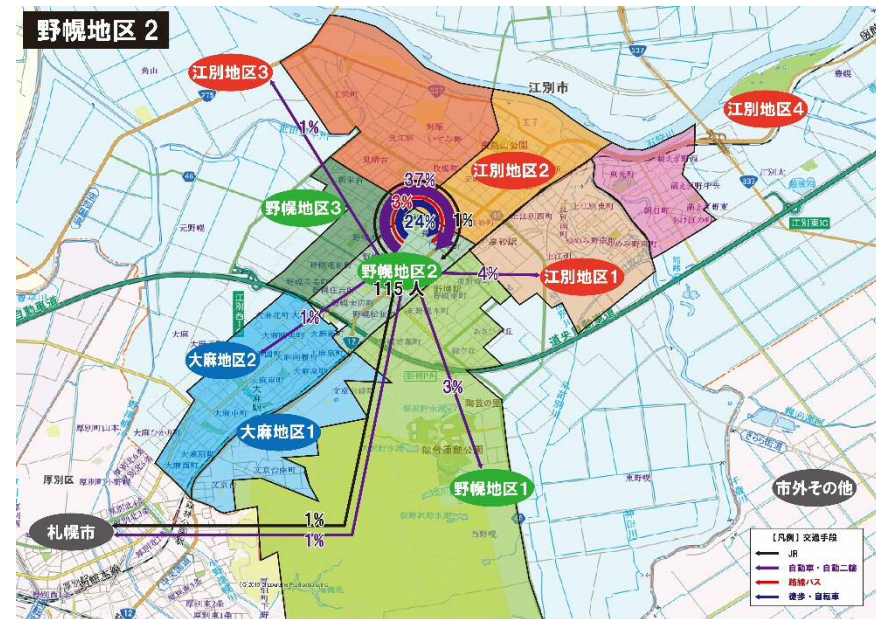
◆地区別買物OD 野幌地区2

- ・野幌地区2からの買い物は、同地区内が68%となっている。
- ・同地区内における代表交通手段は、自動車・自動二輪の割合が37%と高くなっており、次いで徒歩・自転車の割合が24%となっている。
- ・路線バスの利用は、合計しても1割未満となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



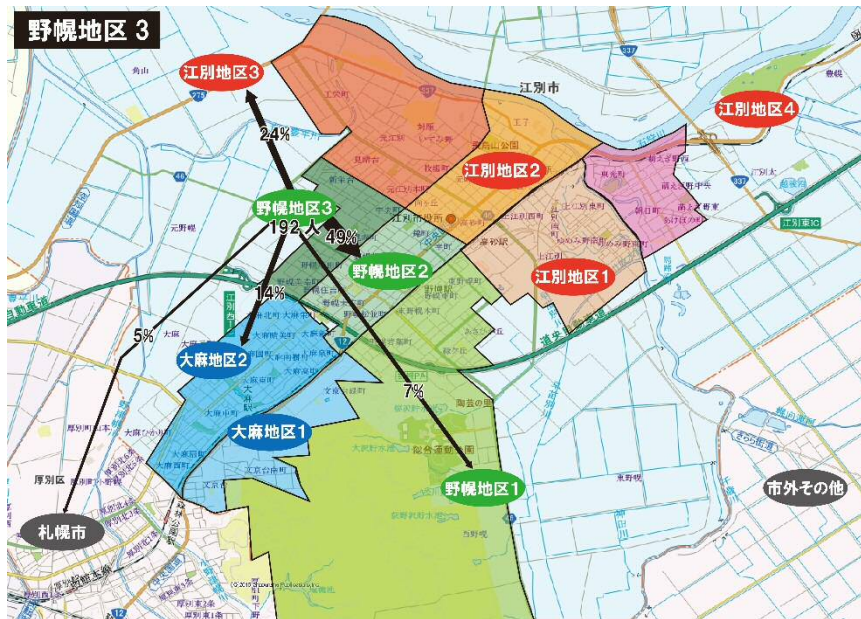
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(3) 買物

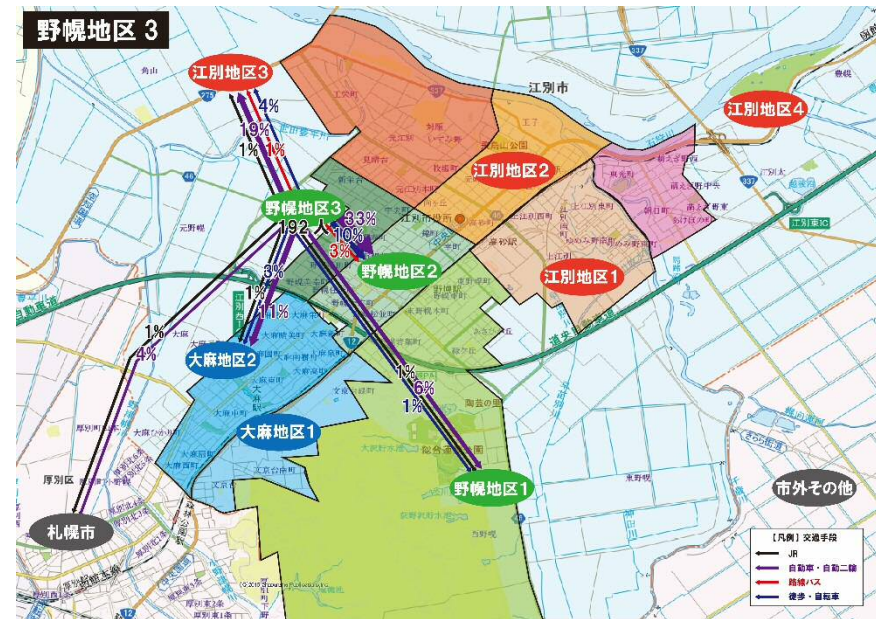
◆地区別買物OD 野幌地区3

- ・野幌地区3からの買い物は、野幌地区2が約半数の49%となっている。
- ・代表交通手段は、各地区とも自動車・自動二輪の割合が高くなっている。
- ・路線バスの利用は、合計しても1割未満となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



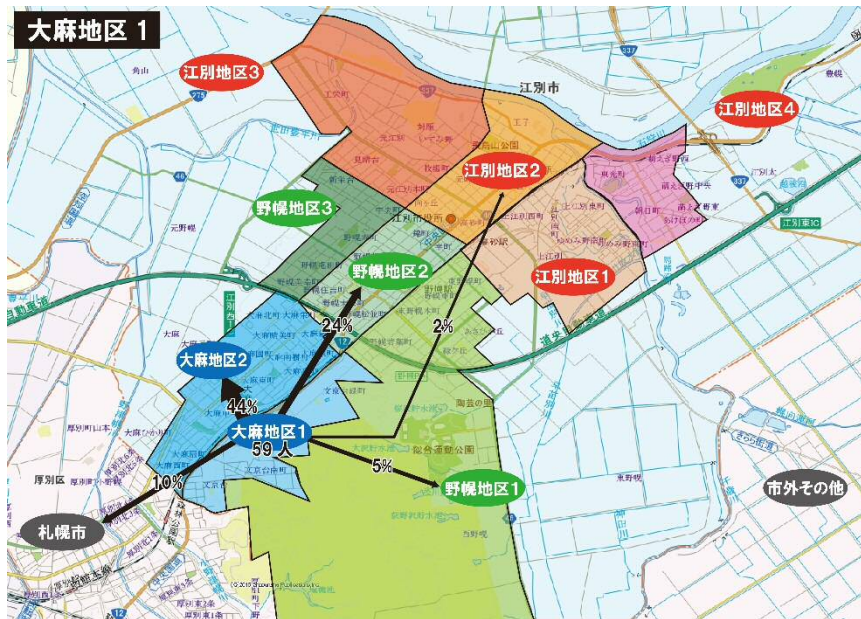
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(3) 買物

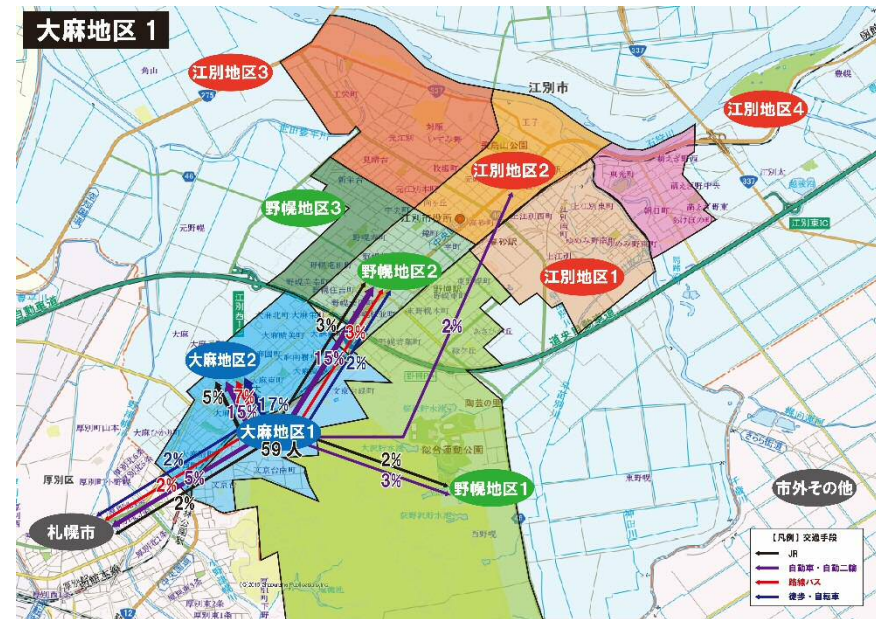
◆地区別買物OD 大麻地区1

- ・大麻地区1からの買い物は、大麻地区2が44%と最も割合が高くなっており、次いで野幌地区2が24%となっている。
- ・代表交通手段は、概ね自動車・自動二輪の割合が高くなっており、大麻地区2については、徒歩・自転車の割合も高くなっている。
- ・路線バスの利用は、大麻地区2で7%となっており、全体では12%となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



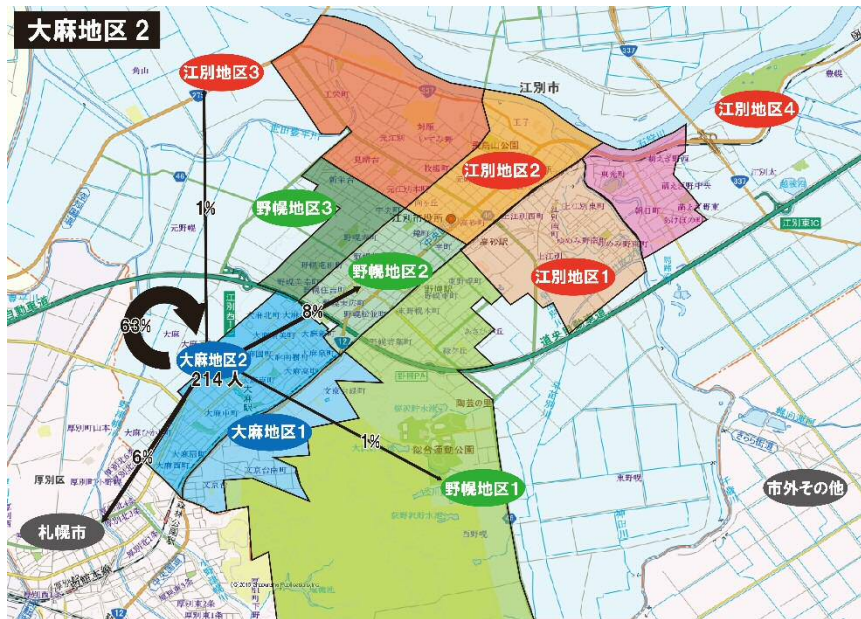
※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

(3)買物

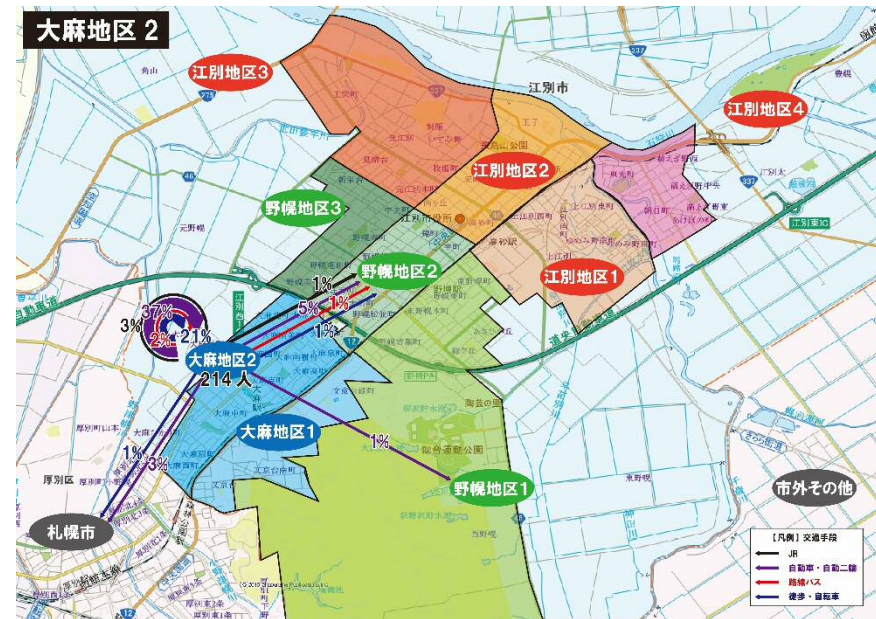
◆地区別買物OD 大麻地区2

- ・大麻地区2からの買い物は、同地区内が63%と高くなっている。
- ・同地区内における代表交通手段は、自動車・自動二輪の割合が37%と最も割合が高くなっており、次いで、徒歩・自転車の割合が21%となっている。
- ・路線バスの利用は、同地区内及び野幌地区2において見られるものの、合計しても1割未満となっている。

■地区別OD



■代表交通手段別OD



※地区名が不明・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※移動手段がその他・無回答は除外して図化しているため、合計は100とならない。
 ※合計が四捨五入しても1%に満たないものは、非表示としている。

移動実態

まとめ

■通勤・通学

- ・通勤・通学先は、江別地区2・4及び野幌地区2を除き、札幌市の割合が約半数と高くなっている。
- ・野幌地区1及び大麻地区2を除き、自動車・自動二輪を利用する割合が高くなっている。
(野幌地区1はJRと自動車・自動二輪の割合が共に41%、大麻地区はJRの割合が高い)
- ・代表交通手段が路線バスとなっている割合は、各地区とも1割未満となっている。

■通院

- ・通院先は、江別市立病院の立地している江別地区2や野幌地区2、札幌市の割合が高くなっている。
- ・野幌地区1は、わずかではあるが、同地区内の割合が最も高くなっている。
- ・大麻地区1・2は、市立病院の立地する江別地区2への割合が約1割となっており、大麻地区1においては、札幌市の割合が約半数の46%となっている。
- ・代表交通手段は、全ての地区で自動車・自動二輪の割合が最も高くなっている。
- ・江別地区4は、路線バスの割合が3割を超えており、同地区内及び江別地区2への割合が高くなっている。

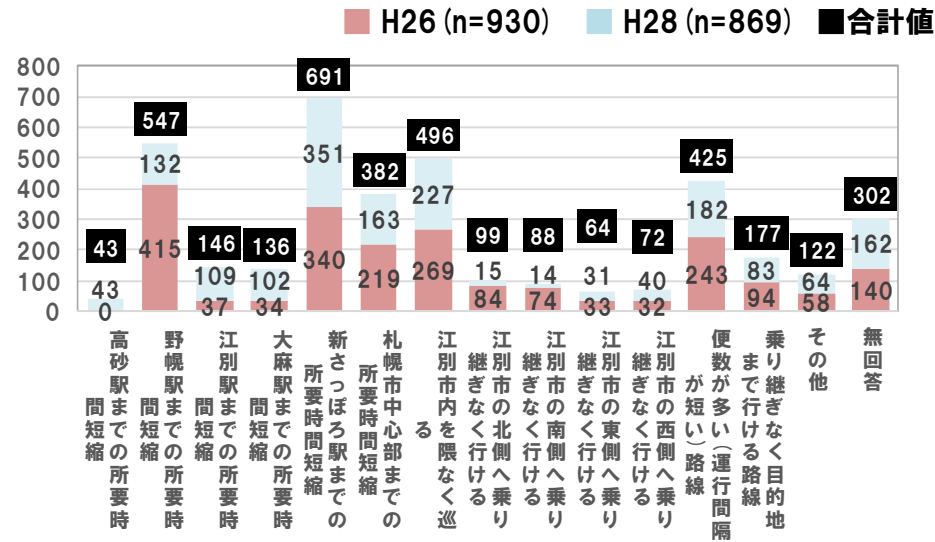
■買い物

- ・野幌地区3及び大麻地区1を目的地とする移動は、見られなかった。
- ・江別地区3、野幌地区1・2及び大麻地区2は、同地区内の移動の割合が6割以上と高くなっている。
- ・一方、同地区内の移動の割合が低くなっているのは、江別地区2及び江別地区4で、1%となっている。
- ・代表交通手段は、全ての地区で自動車・自動二輪の割合が最も高くなっており、大麻地区1を除き、半数以上の割合となっている。
- ・割合は低いものの、全ての地区で野幌地区2への路線バスの利用が存在している。

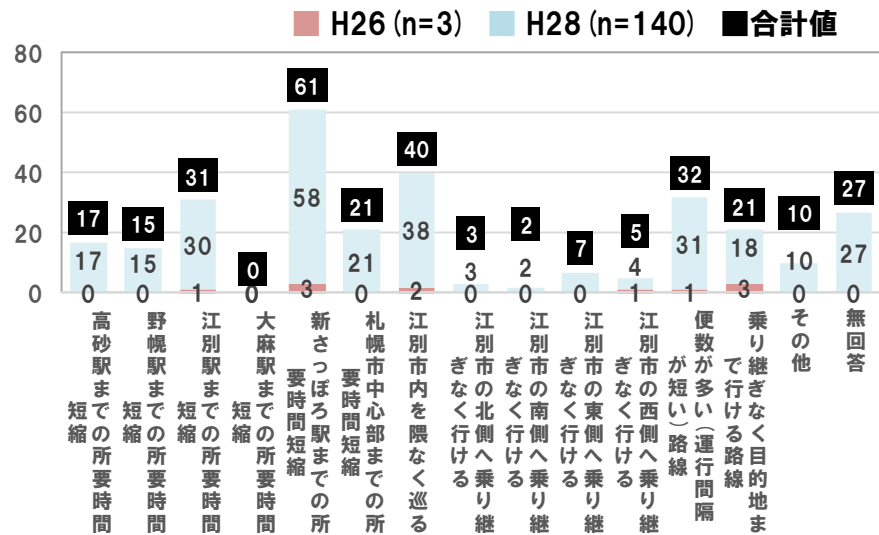
路線バスが再編された場合の利用意向

①希望路線

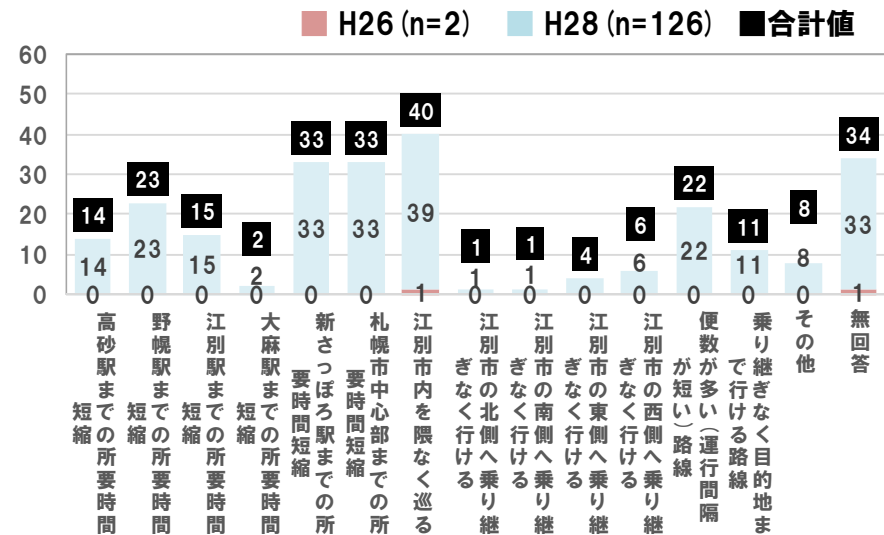
■全体



■江別地区1



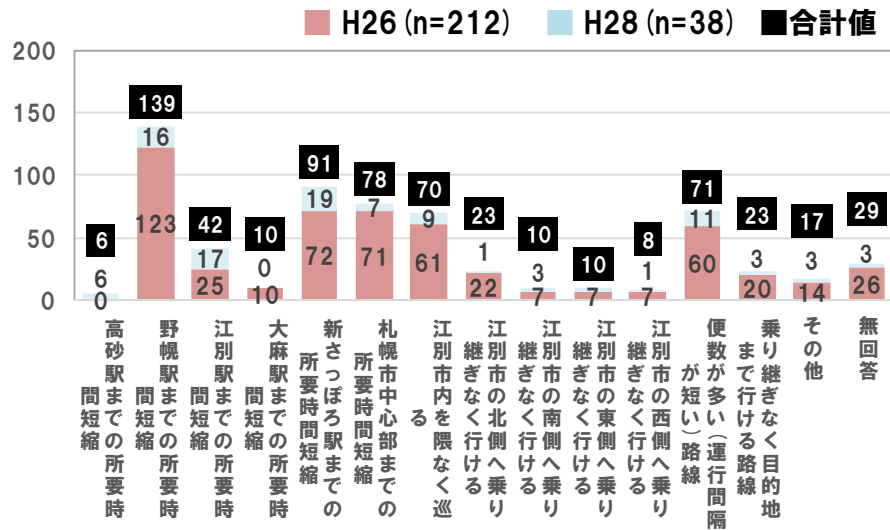
■江別地区2



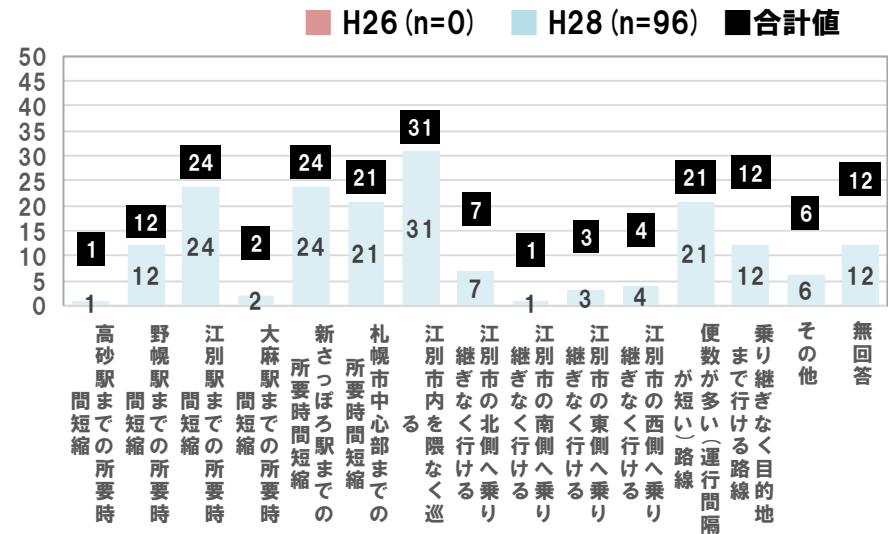
路線バスが再編された場合の利用意向

①希望路線

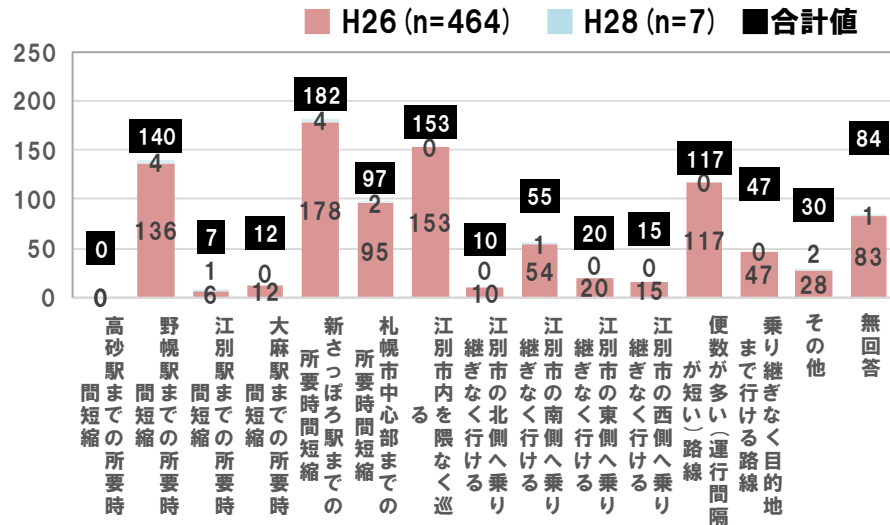
■江別地区3



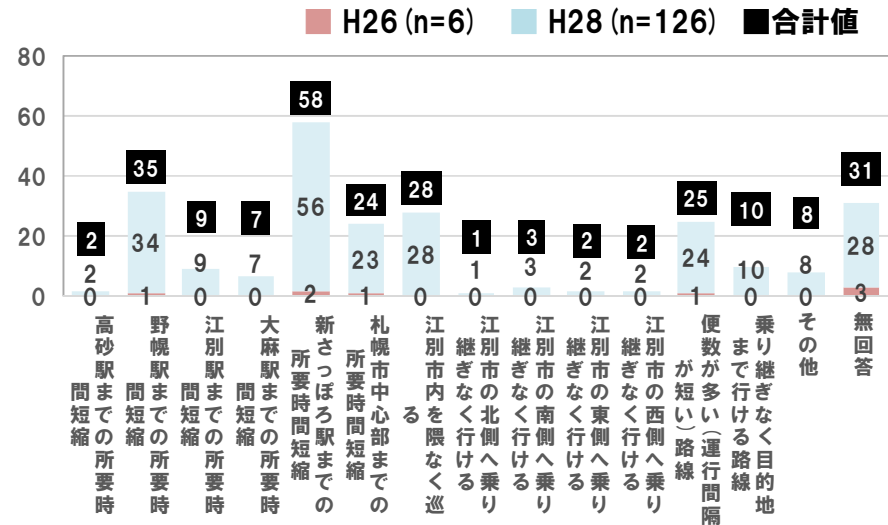
■江別地区4



■野幌地区1



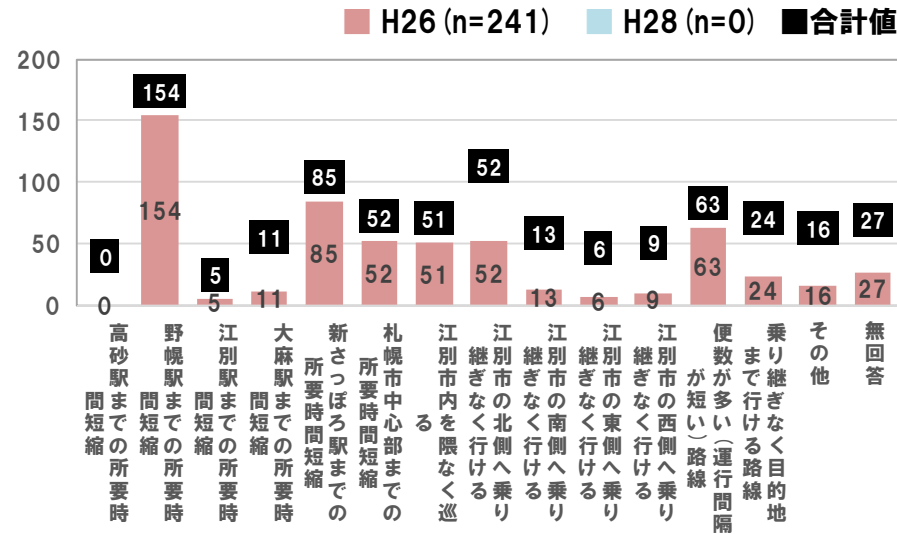
■野幌地区2



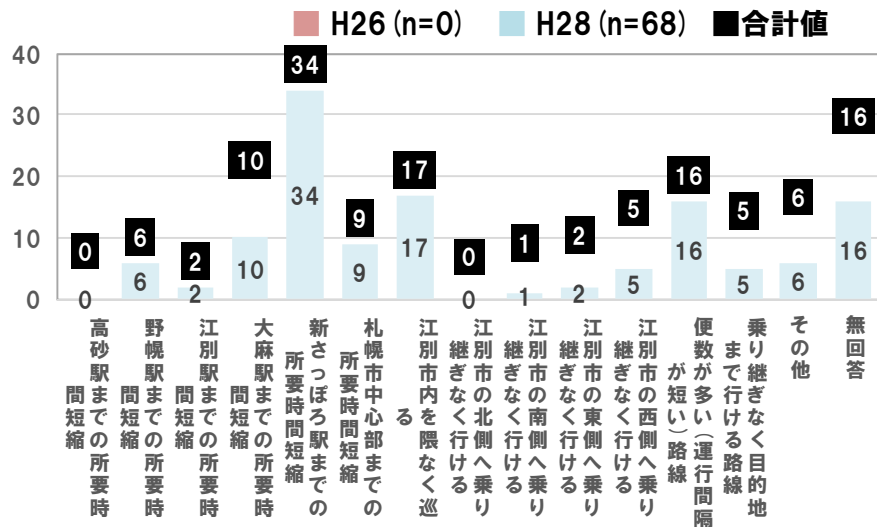
路線バスが再編された場合の利用意向

①希望路線

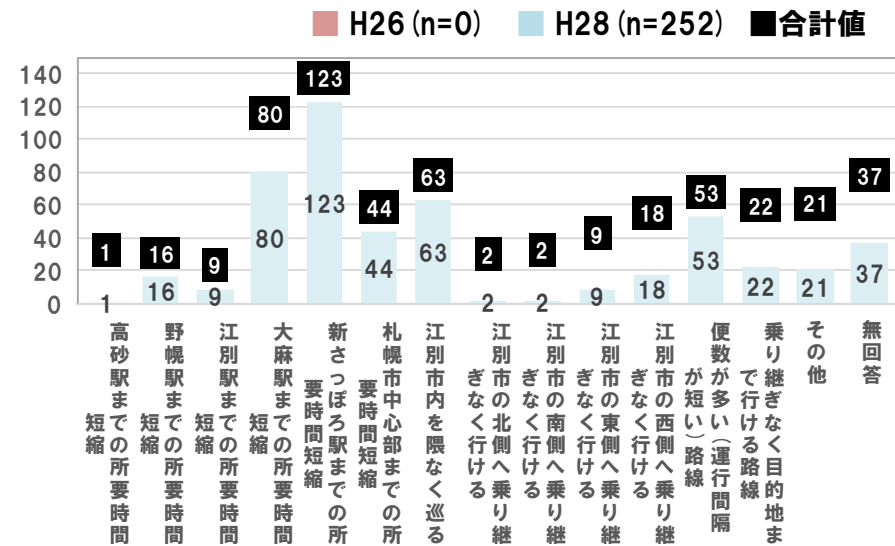
■野幌地区3



■大麻地区1

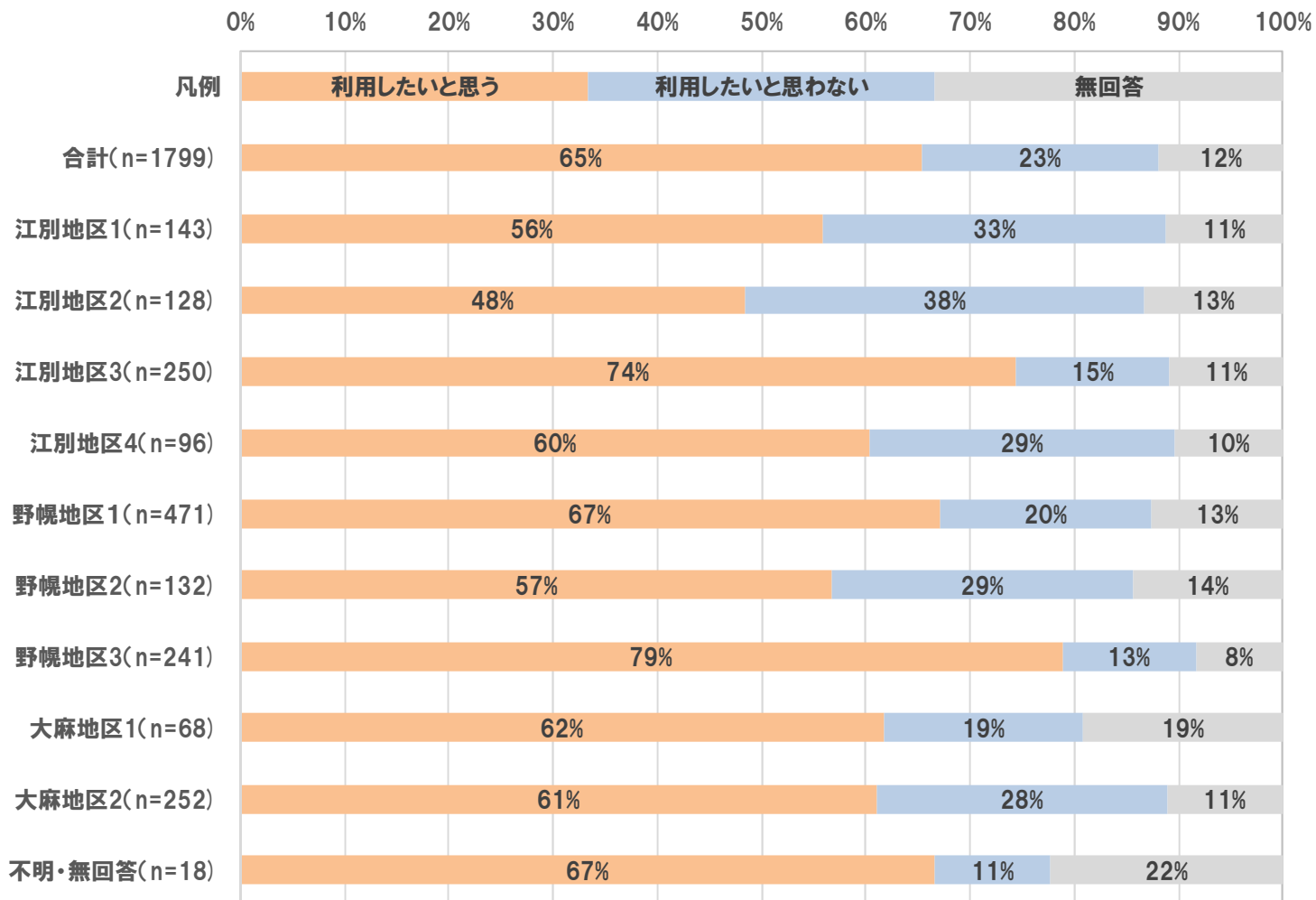


■大麻地区2



設問3. 路線バスが再編された場合の利用意向

②バス路線が再編された場合の利用意向



- ・バス路線が再編された場合の望ましい路線は、平成28年度調査においては、「新さっぽろ駅までの所要時間が短縮された路線」との回答が最も多く、「札幌市中心部までの所要時間短縮」と合わせて、札幌市への所要時間短縮に関する回答が多くなっている。
- ・JR各駅への所要時間短縮に関する回答も合計すると多くなっており、近郊駅から札幌市への速達性向上に対するニーズが高いものと推察される。なお、平成26年度調査は、主に野幌駅の駅勢圏を調査対象としたことから、回答数が多くなっている。また、高砂駅は、平成28年度のみを選択肢のため、平成26年度の回答はない。
- ・「江別市内の商業施設や医療施設、公的施設を隈なく巡る路線」は、江別地区2及び江別地区4において、最も回答の多い選択肢となっている。一方で、江別市の東西方向や南北方向に乗り継ぎなく行ける路線であったり、乗り継ぎなく目的地まで行ける路線への回答はそれほど多くはなっていないことから、商業施設や医療施設など、特定の施設へのアクセス性向上を想定して回答されたものと推察される。
- ・「自宅からバス停まで少し歩いてでも、便数が多い(運行間隔が短い)路線」は、最多とはなっていないものの、各地区とも一定の回答が見られる。
- ・バス路線が再編された場合の利用意向は、全体で65%が「利用したいと思う」と回答している。
- ・鉄道から距離が離れている江別地区3及び野幌地区3の利用意向は7割を超えている一方、江別地区2は唯一、50%を下回っている。